

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 文学部 哲学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1) 理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」	哲学科は「人材の養成に関する目的」及び「学生に習得させるべき能力等の教育目的」を定めている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	『文学部履修要覧2013』、24頁、「哲学科における勉強の方針」	東洋大学が「哲学館」として設立されて以来、哲学科は、西欧の思想を日本の伝統思想にも触れながら、諸学の基礎として哲学に正面から取り組むことに東洋大学哲学の特色がある。21世紀にいたり、時代状況の大きな変化に対応しつつ、常に諸学との対話を通して、諸学の研究成果に学びつつ、哲学自身を反省することをおして、改めて諸学にその基礎を与える哲学の役割を自覚しうる学生の教育を哲学科の教育目的とする。この教育目的は、教育基本法、学校教育法と整合している。	A		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	東洋大学ホームページ「大学紹介」 http://www.toyo.ac.jp/founder/enryo_Oj.html 『文学部履修要覧2013』26頁「哲学科における勉強の方針」	哲学科は、建学の精神にある「諸学の基礎は哲学にあり」を諸学との対話をおして、諸学の方法論的前提を問う真の意味での諸学の基礎づけの作業に邁進してきた。この学際的研究体制は、国際哲学研究という新たな展開のもと、現今の世界のもつ火急な課題に対応する研究成果を生み出しつつある。	A		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	『文学部履修要覧2013』、26頁、「哲学科における勉強の方針」 『文学部』(2013年東洋大学文学部案内) 10頁「卒業後の進路」	卒業後の進路先は、大学院への進学、教職、出版、ジャーナリズム、一般商社などを含め、哲学的な論理的思考が必要とされる分野に渡っている。学科の目的に即した人材養成が最大限に実現されるよう努めなければならない。	B		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	『文学部履修要覧2013』、26頁、「哲学科における勉強の方針」	哲学科の目的は、中央教育審議会の答申1、「世界的研究・教育拠点」、7、社会貢献機能(特に国際交流)に関して、国際哲学研究センターの設立を契機にして、これまでの海外の諸提携校との共同研究の成果を踏まえ、ますます積極的に展開され、充足される方向にある。	A		
2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	『文学部履修要覧2013』、東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/dphi/	『文学部履修要覧2013』に学科の目的が掲載されており、教職員・学生が閲覧できる。またホームページ上にも学科の教育目標・概要・特色があり、ウェブ上での閲覧も可能である。	A		
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	入学卒業時の哲学科学生アンケート	入学時卒業時の学生アンケート、各教員による在学生への随時の聞き取りなどの結果を、月例学科会議などの際に、随時検討、協議している	A		
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	『東洋大学2013 Guide Book』『文学部』(2013年東洋大学文学部案内)『文学部履修要覧2013』、東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/data/pdf/2011/leit_model.pdf	文学部の案内パンフレット『文学部』に学科教育の概要や魅力、カリキュラム上の特色などについて簡潔に記載されており、教員と学生のインタビュー記事も掲載して理解を補い、社会一般に十分に伝達しうる表現になっている。無論、ホームページでの情報は、社会の変化に即応しうる効果的な情報提供となっている。	A		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか	9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。		月例の学科会議などを通じて、教育目的とその実現の実態について、随時、検討を加えている。	A			

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・東洋大学教員資格審査基準 ・文学部教員資格審査内規	・「東洋大学教員資格審査基準」に照らし、さらに「文学部教員資格審査内規」を定めている。	A		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・文学部教授会議事録 ・文学部主任会議事録	・毎月1回開催される定例の主任会が、学部や各学科における教育研究に関する諸問題について、連携・調整を図っている。 ・ただし、「学科主任」に関する規定および職掌は学則にはなく、不明確である。主任会議事録は公開されていない。	C	・大学として「学則」に「学科主任」の規定を明確化する。 ・文学部内の規定として、主任会議の規定を明文化する。	2013年度中
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・『履修要覧 文学部 2013年度』	教員組織の編成方針は、学科会議において、とりわけ、人事の方針作成の際、常に真剣に検討されている。	A		
		17	学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。		編成方針は、常に学科会議で検討されているが、その実現にあたっては、財政上の困難が常につきまとっている。	B		
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	「大学基礎データ」表2	現在、哲学科に割り当てられた専任教員数は充足している。	A		
		※19	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	「大学基礎データ」表2	現在、専任教員数の半数以上が教授となっており、大学設置基準の該当事項を充たしている。	A		
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・大学基礎データ(表A)	<ul style="list-style-type: none"> ・～30歳:0.0%(前年比±0.0%) ・31～40歳:10.5%(−1.6%) ・41～50歳:20.0%(−3.2%) ・51～60歳:36.8%(+4.4%) ・61歳～ :32.6%(+0.3%) 2012年度よりも51歳以上が若干増加しており、偏りが広がっている。	B		
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。		項目19で示した理由により学科構成員の専門領域と年齢構成に偏りがある。年齢構成および担当領域について検討する時期に来ている。	B		
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	22	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・文学部教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定内規	・新規採用に際しては、文学部資格審査委員会において、教育研究業績と担当科目との「科目適合」について審議している。	A		

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 東洋大学教員資格審査委員会規定 文学部教員資格審査委員会規定 文学部教員資格審査委員会規定内規 文学部教授会議事録 	<ul style="list-style-type: none"> 全学の規定に照らして、学部の教員資格審査委員会規定を定め、手続きを明確化している。教授会を通して全専任教員に周知している。 	A		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 文学部教授会議事録 	<ul style="list-style-type: none"> 採用、昇格は教授会に於いて規定に則った方法で適切に行われている。 	A		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 『2011年度 東洋大学文学部年次報告書』P.101～225 東洋大学研究者情報データベース(RIS) 文学部紀要 文学部自己点検・評価委員会議事録 文学部FD講演会チラシ 	<ul style="list-style-type: none"> 左記の資料およびデータベースに各教員の研究業績、教育実績、社会活動貢献等の情報を掲載している。 自己点検・評価活動の一環として学部でFD講演会や研修会を開催し、教員資質向上に取り組んでいる。 	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	東洋大学研究者情報データベース(RIS)	<ul style="list-style-type: none"> 人事考査に係るような、教員の教育研究評価は実施していない。 教員相互の教育研究活動の評価として、「東洋大学研究者情報データベース」に各自の教育研究活動を公表している。 	B		

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27	教育目標を明示しているか。	「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」、『文学部履修要覧2013』、26頁、「哲学科における勉強の方針」	哲学科の教育目標は、根拠資料中に明示されている。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28	ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	『文学部履修要覧2013』、27頁、および大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/dphi/policy.html(哲学科ディプロマ・ポリシー)	哲学科は、ディプロマ・ポリシーを設定している。	A		
		29	教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	『文学部履修要覧2013』、5、27頁、大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/dphi/policy.html(哲学科ディプロマ・ポリシー)	哲学科の教育目標とディプロマ・ポリシーとは相互に整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30	ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	『文学部履修要覧2013』27頁、大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j/html(哲学科ディプロマ・ポリシー)『文学部履修要覧2013』、5頁	諸学の基礎的知識の修得、合理的かつ自律的思考の訓練、情操陶冶による人間形成という具体的目標に配慮して設定された学科科目、および卒業論文の単位の獲得という形で明示されている。	A		
2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	『文学部履修要覧2013』27頁、大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j/html(哲学科カリキュラム・ポリシー)	哲学科は、カリキュラム・ポリシーを設定している。	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	『文学部履修要覧2013』26頁「哲学科における勉強の方針」、および27頁大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j/html(哲学科カリキュラム・ポリシー)『文学部履修要覧2013』、5頁	哲学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目的、勉強の方針、およびディプロマ・ポリシーと整合している。	A		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	『文学部履修要覧2013』28～37頁、大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j/html#03(哲学科カリキュラム・ポリシー)『文学部履修要覧2012』24頁から34頁、哲学科履修ガイド、教育課程表)	哲学を専門的に深く広く学び、創造的な思考能力を養い、人間・歴史・社会・文化を体系的に学べるようにカリキュラム配置する。1,2年次には幅広い教養を身につけ、3,4年次の専門的知識の獲得を踏まえ、こうしたインテンシブ教育の成果が、4年次に全員に課せられる卒業論文執筆として結実する。	A		
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にあり、かつ、その周知方法が有効であるか。	『文学部履修要覧2013』26～27頁、東洋大学インターネット・サイト、「文学部の教育方針(ポリシー)」の論述	哲学科のカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーは、教職員と学生に配布される『文学部履修要覧2013』26～27頁に明示され、ホームページでも公開されている。とくに、各学年の単位僅少者に対する指導において、全体を熟知するように指導している。	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	東洋大学インターネット・サイト、「文学部の教育方針(ポリシー)」の論述	哲学科のカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーは、東洋大学ホームページで公開している。	A		

4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。		学科会議において、教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を随時検討している。特に入学時と単位僅少者の指導、3年次の卒論作成の準備、4年次の卒論指導などに際し、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの周知徹底に努め、その結果を学科会議で検討している。	A		
---	--	----	---	--	--	---	--	--

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	『文学部授業時間表2013』 哲学科教育課程表	「必修科目」、「選択科目」とも、課程表に合わせて開講している。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	哲学科教育課程表 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/pdf/learning/undergraduate/lit/dphi/curriculum_01.pdf	授業内容の難易度、専門性に配慮して、配当学年を適切に設定している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	『文学部履修要覧 2013』	『文学部履修要覧』において、「共通総合科目」、「文学部共通科目」「専門科目」の位置づけを明確にし、それぞれの内容の適切な説明が周知されるよう、努めている。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	哲学科カリキュラム・ポリシー 哲学科教育課程表	カリキュラム・ポリシーと教育課程表に即して、教育課程は、学生の期待と要望、さらにその学習成果の習得に対応するものとなっている。	A		
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	哲学科教育課程表 全シラバス(CD-ROM)	中教審の答申になる「学士力」の4項目に従って、それぞれ以下の科目群で対応するように配慮している。 1. 知識・理解 「共通総合科目」「文学部共通科目」「専門科目」「卒業論文」 2. 汎用的技能 「共通総合科目」「国際コミュニケーション科目」「文学部共通科目」「哲学演習」「卒業論文」 3. 態度・志向性 「卒業論文」「卒業指導」 4. 統合的な学習経験と創造的思考力 「専門科目」「哲学演習」「卒業論文」「卒論指導」	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	哲学科教育課程表	1年次に、哲学演習Iを行い、これまで学んできた英語力を哲学のテキスト解説に役立てるとともに、英語で哲学をすることの意味を熟知させ、第2外国語での文献講読の準備とする。また、哲学基礎概説では、重要な哲学の基礎概念の修得、論理学概説では論理的思考能力の修得に努めている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	哲学科教育目標 哲学科教育課程表	「講義科目」と「演習科目」との兼ね合いは重要であり、とりわけ、「演習科目」における第二外国語(フランス語、ドイツ語)での文献講読に力点を置くと同時に、「講義科目」で統合的で幅広い専門知識の獲得に努めるようにし、両科目の相互の相乗作用が活性化するように心がけている。	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	『文学部履修要覧』33頁	履修登録の単位上限数を、年間48単位としている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	哲学科教育課程表(『文学部履修要覧2013』34～37頁)	1年次の哲学演習Iでは、一クラス30名とし、学生個人々の積極的参加が可能になるようにし、さらにグループ分けによる討論ができるようにしている。2年次の「問題群演習」でも発表や討論、また3,4年次の哲学演習(ゼミ)でも、討論を重視した授業形態をとっている。	A		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	哲学科カリキュラム・ポリシーおよび哲学科教育課程表(『文学部履修要覧2013』27～37頁)	哲学文献を綿密に読み解くための語学科目の重視、討論を通じて新たな知識を獲得しつつ、自分で課題設定して考えることの訓練、レポート課題や卒業論文の作成指導を通して、カリキュラムポリシーに従った学習成果を導くことができている。	A		
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	全シラバス(CD-ROM)	各教員が各項目をできるかぎり適切かつ詳細に記載している。討論が大きな役割を果たす演習科目では、各回の実際の授業内容が予定された内容を超えることもあるが、基本的にはシラバスに示された演習目標に従っている。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	文学部授業評価アンケート集計結果	「授業評価アンケート集計結果」にみられる設問2「シラバスに沿った授業であったか」の回答にみられるように、「文学部共通科目」「専門科目」とも5点満点で4以上であり、概ね、授業内容・方法とシラバスとは、整合的に遂行されている。	A		
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	全シラバス(CD-ROM)	シラバス作成時に、できるだけ、詳細に成績の評価基準を明確にするように、全教員に周知、徹底している。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	哲学科教育課程表	各授業科目の単位数は、大学設置基準に従い、 講義科目: 半期15週で4単位 演習科目: 通年30週で2単位 卒業論文: 8単位 として適切に設定している。	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	「白山キャンパス学年暦 2013」	平成25年度から、春学期秋学期各々15回+定期試験の計16週間となっており、かつ補講期間を1週間取っている。	A		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	「学部単位認定の申し合わせ」	単位認定にあたっては、「学部単位認定の申し合わせ」に従い、教務委員会において原案を作成し、教授会にて審議し、決定している。	A		

4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	「平成25年度 哲学科学習の記録」冊子	月例学科会議で、個々の学生の学習達成度合いまで含めて、教育内容・方法の改善について議論を重ねている。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	『東洋大学哲学講座全4巻』と別巻『哲学の現場そして教育』知泉書館	教育方法の改善を目的とした哲学科のプロジェクトは、『東洋大学哲学講座全4巻』と別巻『哲学の現場そして教育』に示されている。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	文学部授業評価アンケート集計結果『文学部履修要覧2013』	授業評価アンケートの実施する他、『履修要覧』において示されている「進級制度」により、学生の学習態度や学習の成果が評定され、改善の努力が促がされ、その効果がでている。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	卒業時の哲学科アンケート	それぞれの授業で随時、学生の授業についての感想が集められ、授業の改善に役立っている。卒業時のアンケートが実施されている。	A		
2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	『文学部履修要覧2013』28-37頁	特に単位獲得が稀少の学生、欠席が目立つ学生には書面などで通知している。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	『文学部履修要覧2013』28-37頁、東洋大学ホームページ、哲学科ディプロマ・ポリシー	『文学部履修要覧』に記載されている卒業要件は、哲学科ディプロマ・ポリシーに整合するものであり、適切に学位授与を遂行している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	『文学部履修要覧2013』27頁、東洋大学ホームページ、哲学科アドミッション・ポリシー、 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/dphi/policy.html	哲学科のアドミッション・ポリシーが、明確に設定されている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/dphi/policy.html、『文学部履修要覧2013』5頁、27頁	哲学科のアドミッション・ポリシーは、文学部のみならず、他の諸学部等、幅広い知識と教養を求め、その論理的表現能力を獲得すべく、修得されるべき知識の内容と水準を記することで明確な望まれる学生像が明示されている。	A		
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/dphi/policy.html、哲学科アドミッション・ポリシー	哲学科のアドミッション・ポリシーは、東洋大学ホームページに公開されており、『入学試験要項』にも記載されている。	A		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	『入試システムガイド 2013』	各入試方式、募集人員、選考方法を『入試システムガイド』で受験生に明確に指示している。	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	『入試システムガイド 2013』	「一般入試」「推薦入試」「3月入試」等、それぞれ目的に即した選考方法が実施されている。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	「全学入試委員会規程」「学部 教授会規程」「学部 入試委員会規程」	全学入試委員会、学部教授会、学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を行っている。	A		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	「大学基礎データ 表3」	哲学科の各入試方式において、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
		66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	東洋大学ホームページ、哲学科アドミッション・ポリシー 『入試システムガイド 2014』	入試方式や募集人員、選考方法は、哲学科アドミッション・ポリシーにそくして設定してある。	A		

3)適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	「大学基礎データ 表4」	哲学科は1.23で基準以内である。	A	
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	「大学基礎データ 表4」	哲学科は1.23で基準以内である。	A	
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	「大学基礎データ 表4」	編入学定員は定めていない。編入学入試、常に若干名であり、少数の学生の受け入れに留まっている。	A	
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	「学部 入試委員会議事録」 「教授会議事録」	学部入試委員会において、毎年、前年度の入学者数策定の分析を行い、教授会に報告している。	B	
4)学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。		アドミッション・ポリシーの適切性については、定期的に、また、随時、学科会議で検証している。	A	
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	「全学 入試委員会議事録」 「学部 入試委員会議事録」	全学入試委員会、及び学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証と検討を行っている。	A	

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11) その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	『文学部履修要覧2013』、「平成25年度 哲学科学習の記録」冊子	哲学基礎概説や哲学概論、哲学演習などを通じて、幅広い見識と洞察力といった哲学能力の開発に努めている。	A		
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	『文学部授業時間表2013』哲学科教育課程表	語学教育を重視し、英語・ドイツ語・フランス語の内2か国語を必修としている。また全学年に配当された哲学演習の大半においても、原典テキストの読解能力の養成に努め、各言語文化の特質を学べるように工夫されている。	A		
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	『文学部履修要覧2013』、『文学部授業時間表2013』哲学科教育課程表	哲学科のカリキュラムは、幅広い教養を身につけ、職業を含めた社会生活の様々な問題に対処できる能力の養成に努めている。たとえば問題群演習において、個人発表や集団討論の時間を設け、社会対応能力の養成に努めている。	A		
2) 学部・学科独自の評価項目①	(独自に設定してください)	100	(独自に設定してください)					
3) 学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	101	(独自に設定してください)					
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102	(独自に設定してください)					
		103						
		104						
		105						

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 文学部 東洋思想文化学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1) 理念・目的

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1	学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」	東洋思想文化学科は「人材の養成に関する目的」、および「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を定めている。	A		
		2	学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」 東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 『文学部履修要覧2013』6頁	東洋思想文化学科の教育目的は、教育基本法第7条、および学校教育法第83条と整合しており、高等教育機関として適切である。	A		
		3	学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 『文学部履修要覧2013』6頁	建学の精神は、「初学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」であり、東洋を中心とする哲学の理解、また、知識と倫理観を併せ持つことを目標とする東洋思想文化学科の教育目的は、大いに関連性をもっている。	A		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4	学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	東洋大学ホームページ「東洋大学学術情報ポータル」 https://toyo.repo.nii.ac.jp/	東洋思想文化学科の教育目的は、教員の教育・研究実績から判断して、適切なものとなっている。ただし、まだ卒業生を出していないので、教育の実績については、十分には把握し切れていない。	B	卒業生が出た時点で、教育目的が実現しているかを検証する。	4年後
	個性化への対応	5	学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 『文学部履修要覧2013』6頁	東洋思想文化学科の教育目的は、中央教育審議会の答申の「4. 総合的教育」、「7. 社会貢献機能(特に国際交流)」の機能を踏まえて、総合的な文化理解と国際理解、国際交流の特色を打ち出している。	A		
2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6	教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態になっているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/site/depc/ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』6頁	『文学部履修要覧』に学科の教育目的が明示されており、教職員・学生が閲覧できる。また、ホームページにも三つのポリシー、並びに「教育目標」が明示されていて、だれでも閲覧できる。	A		
		7	学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。		学科会議の際に随時検討している。今後は議事録を残して、検討の跡が追跡できるようにする予定でいる。	B	議事録については、本年度から整備している。	本年度
	社会への公表方法	8	受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態になっているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/site/depc/ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』6頁	『文学部履修要覧』に学科の教育目的が明示されており、教職員・学生が閲覧できる。また、ホームページにも三つのポリシー、並びに「教育目標」が明示されていて、だれでも閲覧できる。	A		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9	学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。		学科会議の際に随時検討している。今後は議事録を残して、検討の跡が追跡できるようにする予定でいる。	B	議事録については、本年度から整備している。	本年度

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	「東洋大学教員資格審査基準」 「文学部教員資格審査内規」	「東洋大学教員資格審査基準」に照らし、さらに「文学部教員資格審査内規」を定めている。	A		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	「文学部教授会議事録」 「文学部主任会議事録」 「文学部学科長会議事録」	・毎月1回開催される定例の学科長会議が、学部や各学科における教育研究に関する諸問題について、連携・調整を図っている。	A		
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。		東洋思想文化学科は、インド哲学科と中国哲学文学科を合併する形で成立したため、旧2学科の教員をそのまま引き継いでおり、現時点では、自発的に教員の編成方針を明らかにできる状況にはない。	B	新教員を採用できるようになった時点で、コースごとの希望学生数などを勘案しながら、教員組織の編成方針を決める予定である。	数年後
		17	学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。		具体的な編成方針はまだ打ち出していないが、学科会議等で随時検討している。今後は議事録を残して、検討の跡が追跡できるようにする予定である。	B	議事録については、本年度から整備している。	本年度
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18	※ 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	「大学基礎データ」表2	現在、学科に割り当てられた専任教員数は充足している。	A		
		※19	※ 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	「大学基礎データ」表2	現在、専任教員数の半数以上が教授となっており、大学設置基準の該当事項を充たしている。	A		
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	「平成25年度教員年齢構成表」	低年齢層の比率が少ない点に、若干の問題を残している。	B		
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。		2学科の合併によって新たに成立した学科であり、教員の編成方針を自発的に明らかにし、編成できる段階にない。	B	新教員を採用できるようになった時点で、コースごとの希望学生数などを勘案しながら、教員組織の編成方針を決め、それにそって編成する予定である。	数年後
	22	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備		専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・文学部教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定内規	・新規採用に際しては、文学部資格審査委員会において、教育研究業績と担当科目との「科目適合」について審議している。	A	

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋大学教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定内規 ・文学部教授会議事録 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学の規定に照らして、学部教員資格審査委員会規定を定め、手続きを明確化している。教授会を通して専任教員に周知している。 	A		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・文学部教授会議事録 	<ul style="list-style-type: none"> ・採用、昇格は教授会に於いて規定に則った方法で適切に行われている。 	A		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋大学研究者情報データベース(RIS) ・文学部紀要 ・文学部自己点検・評価委員会議事録 ・文学部FD講演会チラシ 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の資料およびデータベースに各教員の研究業績、教育実績、社会活動貢献等の情報を掲載している。 ・自己点検・評価活動の一環として学部でFD講演会や研修会を開催し、教員資質向上に取り組んでいる。 	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋大学研究者情報データベース(RIS) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人事考査に係るような、教員の教育研究評価は実施していない。 ・教員相互の教育研究活動の評価として、「東洋大学研究者情報データベース」に各自の教育研究活動を公表している。 	B		

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/site/depc/ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html、 『文学部履修要覧2013』6頁	東洋思想文化学科は、ホームページや各種刊行物に教育目標を明示している。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』41頁	東洋思想文化学科はディプロマ・ポリシーを設定している。	A		
		29 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』41頁	東洋思想文化学科の教育目標とディプロマ・ポリシーは整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』41頁	東洋思想文化学科のディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されている。	A		
2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31 カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』41頁	東洋思想文化学科はカリキュラム・ポリシーを設定している。	A		
		32 カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』41頁	東洋思想文化学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標およびディプロマ・ポリシーと整合している。	A		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33 カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』41頁	東洋思想文化学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて、課程表において、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が適切に行われている。	A		

3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』41頁	東洋思想文化学科のディプロマ・ポリシー、およびカリキュラム・ポリシーは、ホームページ、および『文学部履修要覧2013』において公開されている。	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』41頁	東洋思想文化学科のディプロマ・ポリシー、およびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開されており、受験生、および社会一般が自由に閲覧できる。	A		
4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。		学科会議の際に随時検討している。今後は議事録を残して、検討の跡が追跡できるようにする予定でいる。	B	議事録については、本年度から整備している。	本年度

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	『文学部履修要覧2013』50-60頁「第1部 東洋思想文化学科課程表」 『文学部授業時間割表2013』	「必修科目」、「専門科目」とも、課程表に沿って開講している。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	『文学部履修要覧2013』50-60頁「第1部 東洋思想文化学科課程表」	授業科目の専門性、難易度に沿って、配当学年を体系的、かつ適切に設定している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	『文学部履修要覧2013』40頁、44-49頁	『履修要覧』において、「共通総合科目」「文学部共通科目」「専門科目」の位置づけと役割を学生に向けて説明している。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』41頁 『文学部履修要覧2013』50-60頁「第1部 東洋思想文化学科課程表」	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている。	A		
2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	『文学部履修要覧2013』50-60頁「第1部 東洋思想文化学科課程表」 全科目のシラバス	「学士力」の四つの柱のそれぞれを主として以下の科目群で養成するよう配慮している。 1. 知識・理解: 「共通総合科目」「文学部共通科目」「専門科目」の全科目 2. 汎用的技能: 「共通総合科目」「文学部共通科目」「東洋思想文化演習Ⅰ」「東洋思想文化演習Ⅱ」「卒論指導」「卒業論文」 3. 態度・指向性: 「東洋思想文化演習Ⅰ」「東洋思想文化演習Ⅱ」 4. 総合的な学習経験と創造的思考力: 「東洋思想文化演習Ⅰ」「東洋思想文化演習Ⅱ」「卒論指導」「卒業論文」	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	『文学部履修要覧2013』50-60頁「第1部 東洋思想文化学科課程表」 「東洋思想文化への誘いA」「東洋思想文化への誘いB」「レポート・論文制作の技法」のシラバス	1年次に「東洋思想文化への誘いA」「東洋思想文化への誘いB」「レポート・論文制作の技法」を必修として、初年次教育・専門教育への導入教育と位置づけている。 高大連携については、旧インド哲学科で、毎年、数名の高校生を受け入れていたため、東洋思想文化学科でも、高校生の受講可能な時間帯に初歩的な内容の科目を置いて受け入れを継続する方向で検討中である。	A		

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 『文学部履修要覧2013』6頁 『文学部履修要覧2013』50-60頁「第1部 東洋思想文化学科課程表」	教育目標を達成するために、「講義科目」「演習科目」「実技講義科目」「語学科目」「実技科目」「海外文化研修」等の種々の授業形態の科目を設置し、適切に配置している。	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	『文学部履修要覧2013』47-48頁	履修登録の上限を、1年間48単位と定めている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	『文学部履修要覧2013』50-60頁「第1部 東洋思想文化学科課程表」	2-3年次に少人数の「東洋思想文化演習Ⅰ」「東洋思想文化演習Ⅱ」を必修としており、個別指導を含む4年次必修の「卒論指導」と併せて、学生に主体的な学習を促すことに配慮している。ただし、1年次必修で初年次教育・専門教育への導入教育と位置づけている「東洋思想文化への誘いA」「東洋思想文化への誘いB」「レポート・論文制作の技法」等において受講生が多すぎるという問題が生じている。	C	「レポート・論文制作の技法」については、来年度より複数のクラスに分けて、1クラス当たりの学生数を減らす予定である。	来年度
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』41頁 『文学部履修要覧2013』50-60頁「第1部 東洋思想文化学科課程表」 全科目のシラバス	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっている。	A		
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	シラバス依頼時の文書「平成25年度東洋大学シラバス作成に当たってのお願い」「シラバス作成要項(作成例を含む)」 全科目のシラバス	各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、また、学科主任がシラバスをチェックし、問題があれば、担当教員に加筆・修正をお願いしている。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	「授業評価アンケート集計結果」	学科成立の母体となったインド哲学科・中国哲学文学科の「授業評価アンケート」における「シラバス(講義要項)に即した内容の授業が行われていたと思いますか。」の設問に対する回答は、肯定的回答が9割を超えており、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合していると判断できる。	A		

3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	シラバス依頼時の文書「平成25年度東洋大学シラバス作成に当たってのお願い」「シラバス作成要項(作成例を含む)」全科目のシラバス	各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、また、学科主任がシラバスをチェックし、問題があれば、担当教員に加筆・修正をお願いしている。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	『文学部履修要覧2013』50-60頁「第1部 東洋思想文化学科課程表」	各授業科目の単位数は、大学設置基準に従って適切に設定されている。	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	「白山キャンパス学年歴2013」	大学設置基準に基づいて、各学期15回の授業が設定されている。	A		
	52	既修得単位認定の適切性	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	「学部単位認定の申し合わせ」	単位の認定にあたっては、「学部単位認定の申し合わせ」に従い、教務委員会において原案を作成し、教授会にて審議のうえ決定しており、適切な手続きを経て60単位以下で行っている。	A		
4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。		学科会議で教育内容・方法の改善を議題にして話し合い、それを実際の授業に応用している。今後は議事録を残して、検討の跡が追跡できるようにする予定でいる。	B	議事録については、本年度から整備している。	
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的の実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。		学科会議の際に話し合った内容やそれを授業で生かした実例を文書にまとめて公表するには至っていない。	B	議事録については、本年度から整備している。	

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	「授業評価アンケート集計結果」	授業評価アンケートを毎年実施して、学生の学習効果の測定を行い、学科会議でそれをもとに改善策を話し合っている。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	「インド哲学科卒業生アンケート」 「中国哲学文学科卒業前アンケート」	設立母体のインド哲学科・中国哲学文学科ともに、卒業生アンケートを実施しているので、東洋思想文化学科でも、実施する予定である。ただし、卒業生が出るのは数年先のことであるから、その内容等については、今後、詰めてゆく必要がある。	B	卒業生アンケートを実施する。	3年後
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	『文学部履修要覧2013』39-60頁「第1部 東洋思想文化学科」	『履修要覧』において卒業要件を明示するとともに、新入生ガイダンス等において、繰り返し周知している。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』40-60頁	卒業要件は、ディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行っている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59	アドミッション・ポリシーを設定しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』41頁	東洋思想文化学科では、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60	アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『文学部履修要覧2013』41頁	アドミッション・ポリシーは、文学部東洋思想文化学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。	A		
		当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61	受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/depc/policy.html 『入学試験要項2014』	東洋思想文化学科のアドミッション・ポリシーは、『入学試験要項』およびホームページにおいて公開している。	A	
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62	受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/landnavi/ 『入試NAVI2014』	各入試方式とも、募集人員・選考方法を、入試課のホームページ、ならびに『入試NAVI2014』で公開している。このパンフレットは、入試課のホームページからダウンロードできるようになっている。	A		
		63	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/landnavi/ 、『入試NAVI2014』	一般入試は、複数の方式で実施し、高等学校までで学ぶべき知識を広く有するものを選抜しているが、一部の入試では、漢文を重視した入試を行っている。また、推薦入試も複数の方式で実施し、学科の教育内容に強い関心を持つものを選抜するよう工夫している。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64	学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	「東洋大学入試委員会規程」 「文学部教授会規程」 「文学部入試委員会規程」	全学入試委員会、文学部教授会、文学部入試委員会が連携して、学生募集と選抜を行っている。	A		
		※65	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	「2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(文学部)」 『入試NAVI2014』	東洋思想文化学科の各入試方式において、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
		66	アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	「2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(文学部)」 『入試NAVI2014』	東洋思想文化学科では、アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定している。	A		

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。	「大学基礎データ」表4	東洋思想文化学科の入学定員に対する入学者数比率の平均は、0.90～1.25の範囲に収まっている。	A		
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。	「大学基礎データ」表4	東洋思想文化学科の収容定員に対する在籍学生数比率は、0.90～1.25の範囲に収まっている。	A		
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	「大学基礎データ」表4	東洋思想文化学科は設立したばかりなので、現時点では、編入学を認めていない。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	「大学基礎データ」表4	東洋思想文化学科については、いまだ、定員超過、または未充足の状況が生じていないが、もし、今後そうした状況が生ずれば、原因調査と改善方策の立案を行う予定である。	A		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。		随時、学科会議でアドミッション・ポリシーの適切性を検証している。今後は議事録を残して、検討の跡が追跡できるようにする予定である。	B	議事録については、本年度から整備している。	本年度
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	「東洋大学入試委員会議事録」 「文学部入試委員会議事録」	全学の入試委員会、および文学部入試委員会において、毎年度、各入試の募集定員・選抜方法の検証・検討を行っており、東洋思想文化学科内部でも、随時、学科会議でこの問題について話し合っている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	『文学部履修要覧2013』39-60頁「第1部東洋思想文化学科」全科目シラバス	哲学・思想関係の科目を多数設けており、哲学教育を学科教育の柱としている。	S		
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	『文学部履修要覧2013』39-60頁「第1部東洋思想文化学科」全科目シラバス	専門科目の中にも「中国語」「韓国語」等の語学科目を設けるとともに、演習等の授業でも英語・中国語等の文献を扱うようしている。また、「海外文化研修」「インド舞踊」「ヨーガ」等の科目を設け、学生が外国文化に直接触れる機会を設けている。	A		
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	新入生ガイダンス配布資料	就職活動に有利になるように、中国政府公認の中国語の資格試験「漢語水平考試」(略称:HSK)の講座を設け、学生の受講を推進している。ただし、その効果については、まだ十分には把握できていない。	B	受講生の受験状況や結果をアンケート等によって把握する。	本年度
2) 学部・学科独自の評価項目①	(独自に設定してください)	100	学問分野への関心を惹起する施策をおこなっているか。	「実技講義科目」全科目シラバス	異文化や伝統文化を主たる教授対象とする学科であるが、それらの中には日常生活ではなかなか触れ得ず、実感を持ちにくいものもある。そこで、実践を通して身体で異文化や伝統文化を理解し、また、学科の教授内容に親しんでもらうことを目的とする一連の「実技講義科目」を設けている。	S		
3) 学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	101	(独自に設定してください)					
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102	(独自に設定してください)					
		103						
		104						
		105						

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 文学部 日本文学文化学科第1部

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1) 理念・目的

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1	学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」(平成22年規程第38号)	日本文学文化学科においては、「人材の養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を左の規程に定めている。	A		
		2	学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」(平成22年規程第38号)	日本文学文化学科の教育目的は、「日本・日本人を知り、伝統的な学問・日本文化を継承すると同時に、世界から日本を見るという視点を導入することで、新しい時代を切り拓く人材の育成を目標としている。」と述べているように、高い教養と専門的能力を培うと共に、新たな知見を創造する人材の育成を目的としており、その点で教育基本法第7条および学校教育法第83条と整合しており、高等教育機関として適切であると言える。	A		
		3	学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・東洋大学の「建学の理念」 http://www.toyo.ac.jp/site/about/founder-index.html ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」(平成22年規程第38号)	日本文学文化学科は、「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神に則り、「国際社会にふさわしい日本文学文化の理解と創造」を教育目的に掲げ、日本文学文化についての高度な専門知識を有し、発信する能力を身につけることを達成すべき成果として明らかにしている。	A		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4	学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」(平成22年規程第38号) ・文学部日本文学文化学科の「教員紹介」 http://www.toyo.ac.jp/site/djic/professor05.html	日本文学文化学科は日本語、日本古典文学文化、日本近現代文学文化、比較文学文化の4分野の専任教員を擁しており、その教育・研究の実績から判断して、日本文学文化学科の教育目的は適切なものとなっている。	A		
		5	学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」(平成22年規程第38号)	日本文学文化学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「高度専門職業人養成」「総合的教養教育」の機能を踏まえて、学科の個性・特色を打ち出して設定されている。	A		
2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6	教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	①東洋大学HP「情報公開/教育情報公開/文学部」 http://www.toyo.ac.jp/site/data/lit.html ②『履修要覧 文学部 2013年度』P.6	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に記載されている「人材の養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」は、左記の大学HP①および『履修要覧』②にて公表している。	A		
		7	学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・日本文学文化学科科会議事録	学科の理念・目的の周知方法の有効性については、11月～12月の左記の学科教員打ち合わせ会議において、構成員の意見を聴取して、改善している。	A		
	社会への公表方法	8	受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	①東洋大学HP「情報公開/教育情報公開/文学部」 http://www.toyo.ac.jp/site/data/lit.html ②大学HP「学部・大学院/学部・学科/文学部」http://www.toyo.ac.jp/site/lit/ ③大学入試情報サイト「東洋の学び」 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djic/index.html	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に記載されている「人材の養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」は、左記の大学HP①にて公表している。 ・また、上記の規程の内容を踏まえた、学科の「教育理念」を左記の資料②において公表している。③入試情報サイト「東洋の学び」での学科紹介では「人材養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を直接は記載していないが、「学問の魅力」「学び方」などとしてわかりやすく掲載している。	A		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9	学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・日本文学文化学科科会議事録 ・『演習・卒論の手引き』	毎年12月に次年度の『演習・卒論の手引き』を編集する際に、学科の教育目的の適切性(表現の文言も含む)について、学科の構成員が検証し、確認している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	①東洋大学教員資格審査基準(平成12年基準第19号) ②東洋大学教員資格審査委員会規程(昭和32年4月) ③文学部教員資格審査委員会内規(平成14年4月) ④文学部教員資格申し合わせ事項(平成14年4月)	・「東洋大学教員資格審査基準」および「東洋大学教員資格審査委員会規程」に照らし、教員資格基準を明確にするとともに、「文学部教員資格審査委員会内規」「文学部教員資格申し合わせ事項」を定めて、教育歴や研究業績の指標を明確にしている。	A		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・文学部教授会議事録 ・文学部主任会議議案	・毎月1回開催される定例の主任会(2013年4月より「学科長」)が、学部や各学科における教育研究に関する諸問題について、連携・調整を図っている。 ・ただし、「学科主任」(学科長)の職務に関する規程は「学科の校務をつかさどる」とあるのみで不明確である。主任会議(学科長会議)の議事録は正式な会議録としては作成されていない。	C	・文学部内の規程として、主任会議(学科長会議)の役割を明文化する。	2014年度
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・『履修要覧 文学部 2013年度』P.64 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」(平成22年規程第38号) ・東洋大学教員資格審査基準 ・文学部教員資格審査委員会内規 ・日本文学文化学科学科会議事録 ・「大学基礎データ」の「II 教員組織 1 全学の教員組織」の表2	・教員組織の編制方針は学科としては明文化して定めていないが、『履修要覧』には学科の四つの専攻分野を明示して、それに沿った教員編制を行っている。 ・今後は編制方針を明文化することを検討する。 ・また、大学及び学部の教員資格審査基準に基づき、新規採用人事や学生の演習希望調査などの際に、年齢構成や教員一人当たりの学生数などについての現状を確認している。	B		
		17	学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・日本文学文化学科学科会議事録 ・「日本文学文化学科 OD非常勤講師採用内規」	日本文学文化学科学科では契約制外国人教員は採用していない。任期制教員である助教や非常勤講師の採用については、文書化してはいるが、採用の起案に際して学科会議で学科の教育目的等に合致しているか、審議し、確認している。なお、OD(オーバードクター)の非常勤講師採用については、5年間という任期制を学科において採用し、採用方針や更新の基準を文書にて明確にしている。	B		

2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※ 18	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・「大学基礎データ」の「Ⅱ教員組織 1 全学の教員組織」の表2	・日本文学文化学科は、定数では別表1教員が11名・別表2教員が11名の計22名(助教除く)で、現員数は助教を除いて22名で充足している。 ・教員補充枠を定めた「教員定数」の一覧表は公表されていない。	A	「教員定数」を教職員がアクセスしやすい方法で公表すべき。	未定	
		※ 19	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」の「Ⅱ教員組織 1 全学の教員組織」の表2	助教を含めた専任教員23名中、教授は14名で半数以上である。	A			
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・大学基礎データ(表A)	・～30歳:0.0%(前年比±0.0%) ・31～40歳:11.5%(+1.0%) ・41～50歳:24.0%(+4.2%) ・51～60歳:36.8%(+1.4%) ・61歳～ :29.2%(+3.4%) 前年度比で、51歳以上が+4.8%、50歳以下が+5.2%と改善されている。	A			
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	・『履修要覧 文学部 2013年度』P.64.P.170 ・日本文学文化学科科会議事録	・学科教育の専攻分野に沿って、日本語(3名)、古典文学文化(8名)、近現代文学文化(5名)、比較文学文化(4名)、書道・図書館学(3名、うち1名助教)の専門教員によって編成されている。 ・教員組織の編成方針は明文化してはいないが、新規採用人事に際しては、学科の教員会議において採用候補者の研究実績や教育経歴などを学科の教育目的等に照らして合致するものであるか確認している。	B			
	22	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・文学部教員資格審査委員会規程内規 ・文学部教員資格申し合わせ事項	・新規採用に際しては、文学部資格審査委員会において、教育研究業績と担当科目との「科目適合」について審議している。	A			
3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	①東洋大学教員資格審査基準(平成12年基準第19号) ②東洋大学教員資格審査委員会規程(昭和32年4月) ③文学部教員資格審査委員会内規(平成14年4月) ④文学部教員資格申し合わせ事項(平成14年4月) ⑤文学部教授会議事録	・全学の①②の基準・規程に照らして、③学部の教員資格審査委員会規程およびその運用を規程する④を定め、手続きを明確化している。また、教員の採用・昇格は文学部資格審査委員会を経て、文学部教授会において専任教員による審議・投票によって決定される。	A			
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	・文学部教授会議事録	・採用、昇格は教授会に於いて規程に則った方法で適切に行われている。	A			
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・『2013年度 東洋大学文学部自己点検・評価報告書(2012年データブック)』 ・東洋大学研究者情報データベース ・文学部自己点検・評価委員会議事録 ・文学部FD講演会チラシ	・左記の資料およびデータベースに各教員の研究業績、教育実績、社会活動貢献等の情報を掲載している。 ・自己点検・評価活動の一環として学部でFD講演会(GPAの活用について、メンタルヘルスクアを必要とする学生について)や研修会(授業事例報告)を開催し、教員資質向上に取り組んでいる。	B			
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	東洋大学研究者情報データベース	・人事考査に係るような、教員の教育研究評価は実施していない。 ・教員相互の教育研究活動の評価として、「東洋大学研究者情報データベース」に各自の教育研究活動を公表している。 ・更新率は100%(2013年7月10日現在)。	B	・学部として教員の「評価」は実施する予定はない。 ・教員の研究活動を公表している「東洋大学研究者情報データベース」の更新を促進する。		

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	①東洋大学HP「情報公開/教育情報公開/文学部/第1部日本文学文化学科」 http://www.toyo.ac.jp/site/data/lit.htm ②大学HP「学部・大学院/学部・学科/文学部/日本文学文化学科」 http://www.toyo.ac.jp/site/lit/	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に記載されている「人材の養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」は、左記の大学HP①にて公表している。 ・また、②では上記の規程を踏まえて「教育目標」を「日本の文学文化を総合的多角的に考察するとともに、国際社会にふさわしい日本文学文化の継承やその創造に寄与する人材の育成に努め、「世界から日本を見る」という新しい視点から創造性に満ちた教育と研究を実践します」と明示している。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.63 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	設定している。	A		
		29 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・「教育目標」(学部・大学院/学部・学科/文学部/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/lit ・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.63 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	日本文学文化をグローバルな視点で考察し、発信することを教育目標としており、それは「広い視座から、日本のことばや文学文化を理解し、それを糧に社会に適切に対応できるゆたかな見識と能力」を備えることを掲げたディプロマ・ポリシーと整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.63 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	ディプロマポリシーには、共通総合科目、文学部共通科目、専門科目それぞれにおける修得単位数と修得すべき学習成果が明示されている。	A		

2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.63 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	設定している。	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・「教育目標」(学部・大学院/学部・学科/文学部/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/lit ・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.63 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	カリキュラム・ポリシーでは、「日本を知って世界を見る」「世界から日本を見る」というコンセプトのもとで、「4分野の横断的な履修」「段階的学習」「充実した演習科目群」「卒業論文」「幅広い教養」の5つの柱を掲げている。それらは教育目標およびディプロマ・ポリシーと整合している。	A		
	33	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部 日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html	カリキュラム・ポリシーの「4分野の横断的な履修」「段階的学習」「幅広い教養」などに対応して、科目区分「必修科目」「選択必修Ⅰ・Ⅱ」「選択科目」を設け、「日本文学文化」「日本語」の領域を必修としている。「比較文学文化」の領域に関しても、「選択必修」の中で2科目4単位以上の履修を必修としている。	A		
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知ろう状態にあり、かつ、その周知方法が有効であるか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.63 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	大学HP以外にも、毎年教職員及び学生に配布している『履修要覧』や『演習・卒論の手引き』などで公表・周知しており、目に触れる機会も多いので有効であると判断できる。	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知ろう状態にしているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html	大学HPの「入試情報サイト」の中の学部学科紹介の中で公表している。	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.63 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』 ・日本文学文化学科会議事録	11月～12月の学科教員会議の際に、現行のポリシーの適切性を審議し、HPでの公表、『履修要覧』『演習・卒論の手引き』への掲載を検証している。	A		

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37 教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	・『文学部 授業時間割表 2013』 ・「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ ・教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html ・『履修要覧 文学部 2013年度』P.71～74	必修科目、選択必修科目、選択科目すべて開講している。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38 教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ ・教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html ・『履修要覧 文学部 2013年度』P.71～74	・授業科目の難易度および内容によって、初年次教育科目として位置づけている「基礎ゼミナール」は1年次の必修。また、専門基礎科目としては「日本語概説」「日本文学文化概説」「比較文学文化概説」は1～2年次の選択必修、その他の「概論」も2年次より開講。演習科目はⅠ～Ⅲと順次性をもって配当学年を2～4年生に設定している。その上で、「卒業論文」は所定の単位数を修得した者のみが4年次に履修登録できる必修科目として設定している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39 教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	『履修要覧 文学部 2013年度』P.65～69	『履修要覧』によって、一般教養的科目としての「共通総合科目」「文学部共通科目」と専門的科目としての「専門科目」の位置づけと役割を明確に説明している。	A		
	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	40	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html	「世界から日本を見る」「自ら考える力、発信する力を養う」というカリキュラム・ポリシーに従い、比較文学文化や種々の文化論の科目を1年生から配置し、「基礎ゼミナール」を通して基礎的な学力(読む、書く、考える、話す)を養成し、それを演習や卒業で磨き上げていくような教育課程となっている。	A		
2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41 中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ ・教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html ・『履修要覧 文学部 2013年度』P.71～74	・「学士力」に対応すべく、「知識・理解力」の育成では「必修科目」の「日本文学文化概説」「日本語概説」および「選択必修科目」の「文学史」「フランス語圏(英語、ドイツ語、中国)文学文化と日本」などが対応している。 ・「汎用的技能力」および「態度・志向性」の育成は、1年次の「基礎ゼミナール」や2年時以降の「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が実践的な授業内容で対応している。 ・「統合的な学習経験と創造的思考力」の育成は、「必修科目」の「卒業論文」などが対応している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42 専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ ・教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html ・『履修要覧 文学部 2013年度』P.71～74	・1年次の必修科目の「基礎ゼミナール」が複数コース開講され、少人数授業を展開して、初年次教育、導入教育の役割を果たしている。この科目は、読む、書く、考える、話すを基本コンセプトとして、全コースで統一的なシラバスを作成して、授業を展開している。	A		

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「教育目標」(学部・大学院/学部・学科/文学部/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/lit 「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ 教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djic/curriculum05.html 『履修要覧 文学部 2013年度』P.71～74 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識の修得を中心とした分野では「日本文学文化概説」「日本語概説」や各時代の「文学史」、様々な「文化論」などの講義科目を設定している。 「汎用的技能力」を育成するために、双方向型の授業が望ましい領域では「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を設定している。 技術修得が必要な領域では、「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「教職実践演習」などの実技的科目を設定している。 	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	<ul style="list-style-type: none"> 『履修要覧 文学部 2013年度』P.12 	<ul style="list-style-type: none"> 履修登録の上限単位数を、1年間で48単位と定めている。 	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ 日本文学文化学科「演習希望調査」 ToyoNet-ACE https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/login 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次「基礎ゼミナール」、2年時以降「演習」はすべて必修であり、受講者数を上限30名程度となるように「希望調査」を事前に実施して、少人数教育を展開している。 講義科目に関しては、受講者の上限人数は設定していない。 ICTを活用した授業補助として、学内情報システムポータルであるToyoNet-Aceのmanabaによる学生の主体的な意見発信を促している。 	A		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djic/policy.html 「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ 	<ul style="list-style-type: none"> 教育方法はカリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の習得につながるものとなっているが、「シラバス」において全科目の「教育方法」がカリキュラム・ポリシーに対応しているか、検証してはいない。 	B		

2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「平成25年度 東洋大学シラバス作成に当たってのお願い」(教務部長文書) 「シラバス作成要領」 「2013年度 学部 (白山)シラバス・教員プロフィール登録マニュアル」 「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus	<ul style="list-style-type: none"> シラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼して依頼している。 記述に不足があるかどうかのチェックは、学部教務課が実施しているが、学科内では実施していない。 教員個々でのWEB入力方式であるため、記載内容の事前チェックを実施するのは困難。教授会等で教員にシラバス作成マニュアルを厳格に順守することを徹底する。 	B		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> 東洋大学授業評価アンケート 『東洋大学文学部自己点検・評価報告書(2012年データブック)』 	<ul style="list-style-type: none"> 2012年度より実施している、「東洋大学授業評価アンケート」は、授業の「わかりやすさ」「授業運営」「学習成果」「難易度や進捗」について、受講生から評価してもらい、その結果を集計し、担当教員にフィードバックすることで、授業をより良くしていくために実施しているもので、シラバスと授業内容・授業方法の一致・不一致を検証するものではない。 ただし、学生の授業評価によって授業内容や授業方法とシラバスとの整合性は評価結果として検証しようとする。 	B		
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「シラバス作成依頼時の文書」 シラバスhttps://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus 	<ul style="list-style-type: none"> シラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼している。 記述に不足があるかどうかのチェックは、学部教務課で実施しているが、学科内では実施していない。 	B		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html 『履修要覧 文学部 2013年度』P.71～74 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業科目の単位数は、大学設置基準に従って、原則として、以下の通りに定めて、適切に設定している。 講義・演習科目:15回(授業15時間、予習復習30時間)で1単位 外国語科目:15回(授業30時間、予習復習15時間)で1単位 実験・実技・実習科目:15回(授業45時間、予習復習0時間)で1単位 	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	「平成25年度 白山キャンパス学年暦カレンダー」	<ul style="list-style-type: none"> 春学期、秋学期とも、授業15回と補講1回、定期試験1回の授業日数を実施している。 	A		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	「学部単位認定の申し合わせ」	<ul style="list-style-type: none"> 単位認定に当たっては、左記資料に従い、学科の教務担当教員および学科主任が原案を作成し、教授会にて審議して決定している。 学科の単位認定基準は明示されていない。 	B		
4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東洋大学FDニュース」第11号 『2013年度 東洋大学文学部自己点検・評価報告書(2012年データブック)』 日本文学文化学科科会議議事録 	<ul style="list-style-type: none"> 学科においてはFD担当教員を複数人、任命しており、大学のFD推進センターや文学部が主催する講演会や研修会への参加を常に呼びかけている。また、FD活動として取り上げるべきテーマについては、自己点検・評価委員と相談して、学部のFD活動として取り上げてもらうようにしている。 2012年度は日本文学文化学科の教員がFD報告を行った(2013年2月12日、河地修教授「manaba授業活用事例報告—我々は実際どう使っているのか—」)。 学科の初年次教育科目「基礎ゼミナール」の教育内容については、年度末に担当教員による検証会が開かれた。 	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ①「東洋大学FDニュース」第11号 ②『2013年度 東洋大学文学部自己点検・評価報告書(2012年データブック)』 ③日本文学文化学科科会議議事録 ④「2012基礎ゼミナールアンケート集計(全体)(記述式)」 ⑤「2012年度基礎ゼミナールアンケート報告」 	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検評価担当教員を中心に、「東洋大学授業評価アンケート」の結果についての学科報告をまとめており、その際に教育内容・方法についての改善点を議論している。学科報告は②の中で公表している。 「基礎ゼミナール」に関する学生アンケートの結果を集計し、その成果報告を学科会議において行った。 	S		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・東洋大学授業評価アンケート ・平成24年度基礎ゼミナール授業アンケート	・全学で共通のフォーマットによる「東洋大学授業評価アンケート」を実施している。その中で、学部独自の設問も5項目入れている。それらにより、各教員が自己の教育内容・方法について、学習効果を測定し、授業改善に役立てている。 ・学科独自の授業アンケートとして「基礎ゼミナール」の受講生に対して、アンケートを実施し、その結果を集計して、この科目の学習効果の測定に役立てている。	S		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	卒業生アンケート	・2013年3月に第2回の卒業生アンケートを大学全体で実施した。 ・文学部の回答者数は??。	A		
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	①日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ②『履修要覧 文学部 2013年P.13、P.65～74 ③日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	・ディプロマ・ポリシーに基づいて、学科の卒業要件を②『履修要覧』に明記してある。 ・さらに4年次の必修科目「卒業論文」についての学科での指導スケジュール(題目提出から口頭試問まで)を③で明示してある。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	①日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ②『履修要覧 文学部 2013年P.13、P.65～74 ③日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	・ディプロマ・ポリシーに則って、「日本文学文化概説」「日本語概説」「基礎ゼミナール」などの基礎的科目の必修、「演習」や「文化論」などの選択必修の単位をきちんと修得したうえで、「卒業論文」を必修としている。 ・②③にはディプロマ・ポリシーとともに卒業要件や卒業論文の単位履修について明示してある。	S		

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.63 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	・設定している。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.63 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	・アドミッション・ポリシーでは、日本文学文化を深く理解し、また国際的な視野から捉える力を育成するため、文学・文化に対する強い関心と言葉に対する好奇心、社会事象に対する探究心などをもち学生を求めている。そうした観点から、入学までに修得しておくべき学力として、「国語」「外国語」「社会」についてその内容・水準を具体的に明らかにしている。	S		
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準等の明示	61 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html	・左記資料において公表している。	A		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・東洋大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・入試方式別に、募集人員、選考方法を明示している。	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・東洋大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・一般入試では、総合的な学力を求める「3教科A方式」、得意科目を重視する「C・D方式」、大学進学をあきらめない受験生のための「3月入試」を実施している。 ・推薦入試では、個性豊かな学生を求めて第1部・第2部とも「自己推薦」「指定校推薦」、第2部では「学校推薦」を実施している。	A		
		64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・「東洋大学入試試験委員会規程」 ・「文学部教授会規程」	・全学の入試委員会および学部教授会が連携して、学生募集、選抜を実施している。入試の合否判定等は教授会で審議を行っており、透明性は確保されている。 ・学部内における「入試委員会」は整備されていない。 ・各学科の学生募集、入学選抜方法は学科長を中心として、各学科が決定し、学科長会議の議を経て入試課へ報告している。募集人員数の変更や入試方法の変更については、必ずしも教授会や入試委員会の審議を経ているとは言い難い。	B		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・「2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(文学部)」	・一般入試、公募制推薦入試のいずれも2倍を超えていない。	A		
		66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・東洋大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・アドミッション・ポリシーに従って、設定している。	A		

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・「大学基礎データ 表4 学部・学科の学生定員及び在籍学生数」	・日本文学文化学科第1部:1.24	A		
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・「大学基礎データ 表4 学部・学科の学生定員及び在籍学生数」	・日本文学文化学科第1部:1.23	A		
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	・「大学基礎データ 表4 学部・学科の学生定員及び在籍学生数」	・学科ごとの編入学定員は定めていないので、比率は不明だが、2013年度は編入学生は4名であり、適切である。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・文学部教授会議事録	・教授会において、前年度の入学者数策定結果の報告は行っているが、学科としては定員超過・未充足は生じていないので、原因調査と改善方策案の立案は行っていない。	A		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・日本文学文化学科科会議事録	11月～12月の学科教員会議の際に、現行のポリシーの適切性を審議し、HPでの公表、『履修要覧』『演習・卒論の手引』への掲載を検証している。	A		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・日本文学文化学科科会議事録 ・文学部教授会議事録	・学科において前年度入試の結果を検証し、次年度の学生募集及び入学者選抜についての適切性を審議し、文学部教授会において検証している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。		・とくに「哲学教育」というテーマで推進している教育・研究活動は現在はない。	C	・初年次教育科目である「基礎ゼミナール」の中で、東洋大学の「哲学教育」について講義する時間を取り入れる。	2014年度以降
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ ・教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html	・日本の文学文化を世界に向けて発信できるような人材を養成するという学科教育の目的に照らして、比較文学文化分野の科目に「フランス語圏」「英語圏」「ドイツ語圏」「中国語」と「日本文学文化」という講義科目を設置している。 ・海外からの留学生の受け入れ、学生の海外留学の推進などは、学科としては特段の方策を立てていない。2014年度からの「中期目標・計画」の中で推進策を打ち出すことを検討中。	B		
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・日本文学文化学科キャリア支援講演会チラシ	・2012年度は学科としては特段のキャリア教育に関する教育・研究活動は行っていない。 ・2013年度は、日本文学文化学会との共催で「キャリア支援講演会」(7月6日、講師は作家の鈴木善徳氏)を開催した。秋にも第2回を開催予定。	B		
2) 学部・学科独自の評価項目①	伝統文化教育	100	教育・研究活動の中で日本の伝統文化教育を推進しているか。	・能楽鑑賞教室チラシ ・新内節講演会チラシ ・東洋大学書展	・いずれも文学部の「伝統文化講座」の一環であるが、学科の教員が企画、運営に関わっている。とくに「能楽鑑賞教室」は日本文学文化学科の新入生初年次教育プログラムとしても位置付けられ、学科を挙げて、日本の伝統文化教育に力を入れている。	S		
3) 学部・学科独自の評価項目②	学習機会の拡大	101	3部間聴講制度を実施。	『履修要覧 文学部 2013年度』P.70	・同一のカリキュラムによる教育を展開している日本文学文化学科の第1部・第2部・通信教育部の「3部間」における相互聴講制度を設けている。卒業までに40単位を上限(同一部内で30単位まで)として科目の履修・単位修得を認めている。	S		
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102	(独自に設定してください)					
		103						
		104						
		105						

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 文学部 英米文学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1) 理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	http://www.toyo.ac.jp/data/lit/dealcourse_j.html	英米文学科として人材の養成に関する目的を定め、明記している	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	http://www.toyo.ac.jp/data/lit/dealcourse_j.html	英米文学科として教育目標を定め、明記し、内容は高等教育機関として大学が追求すべき目的と整合している	A		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	http://www.toyo.ac.jp/data/lit/dealcourse_j.html	英米文学科として達成目標を定め、明記している。その内容は、東洋大学学則第2条「本学は、創立者井上円了博士の建学の精神に基づき、東西学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めると共に、人格の陶冶と情操の涵養とに務め、国家及び世界の文化向上に貢献しうる有為の人材を養成することを目的とする」に整合している。(東洋大学学則第2条参照)	A		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	大学HPの英米文学科ページの「教員紹介」	専任教員の教育・研究実績から判断して適切なものとなっている	A		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	大学HPの英米文学科ページ	英米文学科の個性・特色の表現については、中教審の大学機能別分化論における「幅広い職業人養成」と「総合的教養教育」を視野に入れて一部はなされているが、総体としてはまだ課題がある	B		
2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	http://www.toyo.ac.jp/data/lit/dealcourse_j.html	英米文学科の目的は左記の大学HPで公開している	A		
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	http://www.toyo.ac.jp/lit/evaluate_j.html	授業アンケートを実施し、周知方法を改善する方向で努力しており、『学習の手引き:新入生用』改訂版(今年度4月配布)に英米文学科の教育目標と三つのポリシーを掲載して周知を図る	A		
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	http://www.toyo.ac.jp/data/lit/dealcourse_j.html	英米文学科の目的は左記の大学HPで公開している	A		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	『学習の手引き:新入生用』(英米文学科)	恒常的にはなされていなかったが、昨年度は10月の学科会議で教育目標および現行ポリシーの適切性を検証し、『学習の手引き:新入生用』改訂版(今年度4月配布)に掲載した	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・東洋大学教員資格審査基準 ・文学部教員資格審査委員会規定(内規) ・文学部教員資格審査に関する申し合わせ事項	・「東洋大学教員資格審査基準」に基づき、さらに「文学部教員資格審査委員会規定(内規)」および「文学部教員資格審査に関する申し合わせ事項」を定めている。	A		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・文学部教授会議事録 ・文学部学科長会議事録	・毎月1回開催される定例の学科長会議が、学部や各学科における教育研究に関する諸問題について、連携・調整を図っている。 ・ただし、「学科長」に関する規定および職率は学則にはなく、不明確である。学科長会議事録は公開されていない。	B		
	教員構成の明確化	16 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	大学基礎データ(表2)と、大学HPの英米文学科ページの「教員紹介」	専任教員数は左記の大学基礎データ(表2)に公表されている。各教員の専門分野についても、イギリス文学(3人)、アメリカ文学(4人)、英語学(3人)、英語教育学(1人)においてバランスを取っている。	A		
		17 学部、各学科の個性、特色を發揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・文学部教授会議事録 ・文学部学科長会議事録	英米文学科としてはなされないが、学部としてはなされている	A		
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※ 18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	大学基礎データ(表2)	学科に割り当てられた専任教員数11名のところ11名の専任教員がいる	A		
		※ 19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	大学基礎データ(表2)	専任教員11名中6名が教授で、半数以上である	A		
		20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	平成25年度・教員年齢構成表(5/1付)	・～30歳:0.0% ・31～40歳:11.5% ・41～50歳:24.0% ・51～60歳:35.4% ・61～70歳:29.2% 50歳以下と51～60歳と61～70歳がおよそ三分の一ずつである。	B		
		21 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	http://www.toyo.ac.jp/lit/deal/professor_j.html	英文学、アメリカ文学、英語学の三分野に偏りがないように編制されている	A		
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	22 専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・東洋大学教員資格審査基準 ・文学部教員資格審査委員会規定(内規) ・文学部教員資格審査に関する申し合わせ事項	新規採用に際しては、文学部資格審査委員会において、教育研究業績と担当科目との「科目適合」について審議している。	A		

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 東洋大学教員資格審査基準 文学部教員資格審査委員会規定(内規) 文学部教員資格審査に関する申し合わせ事項 文学部教授会議事録 	全学の規定に照らして、学部の教員資格審査委員会規定を定め、手続きを明確化している。教授会を通して全専任教員に周知している。	A		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 文学部教授会議事録 	採用、昇格は教授会に於いて規定に則った方法で適切に行われている。	A		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 東洋大学研究者情報データベース(RIS) 文学部紀要『白山英米文学』 文学部自己点検・評価委員会議事録 文学部FD講演会チラシ 	<ul style="list-style-type: none"> 左記の資料に各教員の研究業績、教育実績、社会活動貢献等の情報を掲載している。 自己点検・評価活動の一環として学部でFD講演会や研修会を開催し、教員資質向上に取り組んでいる。 	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	東洋大学研究者情報データベース(RIS)	<ul style="list-style-type: none"> 人事考査に係るような、教員の教育研究評価は実施していない。 教員相互の教育研究活動の評価として、「東洋大学研究者情報データベース」に各自の教育研究活動を公表している。 更新率は100%(2013年12月8日現在)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学部として教員の「評価」は実施する予定はない。 教員の研究活動を公表している「東洋大学研究者情報データベース」の更新を促進する。 教育活動等を公表している『東洋大学文学部紀要』や『文学部年次報告書』の公開のあり方や情報の整備を検討する。 	

(4)教育内容・方法・成果

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	http://www.toyo.ac.jp/site/deal/	「英語圏の文化を学びながら、英語の4技能一聞く・話す・読む・書くを高めることを基礎として、さまざまな文学的・語学的読解力、思考力、表現力を養う」という教育目標を明示している	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 デイプロマ・ポリシーを設定しているか。	http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/deal/policy.html	「英米の文学作品(小説、詩、戯曲など)を味読することにより、深く感じる能力を身につけて、人間の多様性を広い見地より深く理解できる人材を養成する。また、英語学を学ぶことによって言語に対する論理的な理解ができる人材を育てる。両者相まって、バランスのとれた良識と分別をそなえた人となるように教育することが最終目的である」と設定している	A		
		29 教育目標とデイプロマ・ポリシーは整合しているか。	http://www.toyo.ac.jp/site/deal/ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/deal/policy_j.html	上記27および28のように、教育目標とデイプロマ・ポリシーは整合している	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 デイプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/deal/policy.html	抽象的な表現もみられるが、上記28のように、修得すべき学習成果が明示されている	A		
2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31 カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j.html	「英語の四技能を向上させること、英米の文学作品の味読を通して英米の文化や思想を理解する能力を培うこと、英米文学・英語学の研究に対処可能な英語力を養成すること、教員との親密なコミュニケーションを通じて成長を図ること」などを含んだカリキュラムポリシーを設定している	A		
		32 カリキュラム・ポリシーは、教育目標やデイプロマ・ポリシーと整合しているか。	http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j.html http://www.toyo.ac.jp/site/deal/	カリキュラム・ポリシーは、上記の27および28のように、教育目標およびデイプロマ・ポリシーと整合している	A		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33 カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	http://www.toyo.ac.jp/nyushi/pdf/learning/undergraduate/lit/deal/curriculum_01.pdf	共通総合科目、文学部共通科目、および専門科目の区分、必修・選択必修・選択の別、講義(4単位)と演習(2単位)の単位数を明示している。(2013年度入学者履修要覧・文学部pp.82-84も参照)	A		
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34 教職員・学生が、デイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j.html	英米文学科のポリシーは左記の大学HP、および「2013年度履修要項・文学部」p.77で、公開されており、有効である	A		
	社会への公表方法	35 受験生を含む社会一般が、デイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j.html	英米文学科のポリシーは左記の大学HPで公開されているので、受験生および社会一般が知りうる状態にある	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36 教育目的、デイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	『学習の手引き:新入生用』(第2版)	恒常的にはなされていなかったが、昨年度は10月の学科会議で教育目標および現行ポリシーの適切性を検証し、『学習の手引き:新入生用』(第2版)(今年度4月配布)に掲載した	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	http://www.toyo.ac.jp/site/deal/curriculum06.html	教育課程上、主要な科目はすべて開講している	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	http://www.toyo.ac.jp/site/deal/curriculum06.html	1年次のフレッシュマン講読セミナー、英会話から始めて、2～3年次の英文学史、米文学史、英語学概論その他の専門的な講義・演習を経て、最終的に4年次の卒論に至るように配置されている	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	http://www.toyo.ac.jp/site/deal/curriculum06.html	カリキュラムによって、共通総合科目、文学部共通科目、専門科目の位置づけが明らかにされている	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	http://www.toyo.ac.jp/site/deal/curriculum06.html	カリキュラム・ポリシーに従い、期待される学習成果の修得につながる教育課程になっている(左記の本学HPの他に、2013年度履修要項・文学部pp76-84も参照)	A		
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審査における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	http://www.toyo.ac.jp/site/deal/curriculum06.html	学士課程教育に相応しい内容を提供している。すなわち、学士力を構成する「知識・理解」については、英文学史、米文学史、英文法概説、英語学概説によって基本的な知識を体系的に理解させ、「汎用的技能および態度・志向性」については、英会話、フレッシュマン講読セミナーおよび専門的な講義・演習により英語力と論理的思考力を養い、さらに、卒論によって「総合的な学習経験と創造的思考力」を培う	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	文学部履修要項pp.76-84	高大連携はしていないが、専任教員が担当する1年生必修科目「フレッシュマン講読セミナー」がその意味で重要な役割を担っている(左記の2013年度履修要項・文学部の他に、「フレッシュマン講読セミナー」のシラバスも参照)	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	http://www.toyo.ac.jp/site/deal/curriculum06.html	教育目標を達成するために、講義および演習の授業形態を適切に設定している(2013年度履修要覧・文学部p.12も参照)	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	2013年度履修登録のしおり・文学部(第一部)p.8	1年間の履修登録科目は48単位を上限としている	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	2012年度東洋大学文学部年次報告書pp.40-44	講義科目は別として、演習科目は、学生の主体的参加を促すため、少人数教育を採り入れている	A		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	2012年度版文学部年次報告書の文学部授業アンケート(平成24年度実施)集計結果について	授業アンケートによれば、学生からの評価はおおむねよい	A		
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	シラバス作成要項	各教員がシラバス作成マニュアルに従って作成し、講義・演習の目的・内容・到達目標・スケジュールは具体的に明記されている	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	2012年度版文学部年次報告書の文学部授業アンケート(平成24年度実施)集計結果について	授業アンケートによれば、受講者がそのような回答を寄せている	A		
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	シラバス作成要項	シラバスに成績評価基準が明示されている	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	2013年度履修要項・文学部p12	単位数は、大学設置基準に沿って設定されている。すなわち、講義科目は通年30週で4単位、演習科目は通年30週で2単位、卒論は4単位である	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	2013年度履修要項・文学部p12	授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されている	A		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	2013年度履修要項・文学部pp.250-251	留学に関わる単位認定は、留学終了届・履修登録報告書・学習状況報告書・Transcript of Academic Record等を精査し、本学の該当科目の内容・単位数との整合性を確認して、教授会で審議し決定している	A		

4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	http://www.toyo.ac.jp/site/fd/activity26.html	学科としては設けていない。定期的ではないが、FDの研究会が行われている	B		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	http://www.toyo.ac.jp/site/fd/fdb.html	学科としては設けていないが、FD活動の報告がなされ、明らかになっている(左記のFDハンドブックの各項目を参照)	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	2012年度秋学期授業評価アンケート	2012年度秋学期の全学共通授業評価アンケートの実施結果は、学科別集計および教員別集計として、フィードバックされている。これを受けての改善の取り組みは、学科としては特になされていないが、次年度のシラバス改訂に反映するなど、個人的になされている可能性はある	B		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	http://www.toyo.ac.jp/lit/evaluate_j.html	授業アンケート、進路状況アンケート、卒業生アンケートを実施している	A		
2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	2013年度履修要項・文学部pp.77-78	履修要項に卒業要件が明示されており、学生があらかじめ知り得る状態になっている	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/deal/policy.html http://www.toyo.ac.jp/nyushi/pdf/learning/undergraduate/lit/deal/curriculum_01.pdf	ディプロマ・ポリシーと卒業要件は整合し、それに則って学位が授与されている(2013年度履修要項・文学部pp.77-78も参照)	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/deal/policy.html	英米文学科としてアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）を設定している	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/deal/policy.html	抽象的な表現もみられるが、「人間と言葉に関心を持っている学生」、「文学作品を学ぶことから、人間に対する理解を深め、批判精神を備えた人間に成長したいと願う学生」、「外国語としての英語を身につけることによって、異文化に生きる人々と心を通じ合わせようとする学生」等を求めることを明らかにしている	A		
		61 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準等の明示	http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/deal/policy.html	左記の大学HPで英米文学科のアドミッション・ポリシーを公開し、受験生を含む社会一般が知りうる状態にしている	A		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	http://www.toyo.ac.jp/nyushi/admission/faculty/lit/deal/cen/index.html	受験生に分かりやすいように、入試方式別、募集人員、選考方法(受験科目等)を明示している	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	入試要項 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/admission/	各入試方式の趣旨に適した学生募集・試験科目・選考方法を設定している	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	東洋大学入試委員会規定 文学部教授会規定	学科単独の問題ではないので学科としてはしていないが、全学入試委員会、文学部教授会、文学部入試委員会が連携して、学生募集、入学者選抜を行っている。	A		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	http://www.toyo.ac.jp/data/data2010.html	英米文学科では各入試方式で募集定員の2倍以上の学生は入学していない	A		
		66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j.html	入試要項	アドミッション・ポリシーに従って、入試方式・募集人員・選考方法を設定している	A	

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	大学基礎データ(文学部)	英米文学科の入学定員120に対して、入学者は、2009年度151、2010年度129、2011年度142、2012年度142、2013年度142であり、過去5年の入学定員に対する入学者比率の平均は1,177である	A		
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	大学基礎データ(文学部)	2012年度は1.18である	A		
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	http://www.toyo.ac.jp/nyushi/admission/faculty/lit/deal/spe/spe-tra.html	比率は不明 「若干名」となっているが、編入学生の数は10名未満である	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善策の立案を行っているか。	文学部教授会議事録	現実問題となっていないので、行っていない	A		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/deal/policy.html	恒常的には行っていなかったが、昨年度は10月の学科会議で教育目標および現行ポリシーの適切性を検証し、『学習の手引き:新入生用』(第2版)(今年度4月配布)に掲載した	B		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	文学部教授会議事録	学科単位ではないが、学部並びに大学全体としては入試委員会が行っている	B		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	英米文学科の3つのポリシーおよびカリキュラム http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/deal/policy.html	英米文学科の本来的な研究・教育内容として、英語という言語および英米の文学に反映あるいは浸透している「ものの考え方」に深く触れ、卒論にまとめることを通して、自立した思考のできる人材育成を行っている。また、共通総合科目で「哲学」科目を開講している。	A		
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	英米文学科の三つのポリシーおよびカリキュラム http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/deal/policy.html	国際化については、文学部全体で取り組んでいる学生のTOEIC受験に加え、海外留学・語学研修参加の奨励をおこなうとともに、国際語の一つである英語および英米文学を専門に研究・教育する学科としてのポリシーとカリキュラムを地道に実践している。	A		
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・入試情報サイト・英米文学科・資格・進路・教員志望者予備講習会実施報告書(2012年12月1日開催) ・大学院進学相談会案内(2013年7月6日開催)	キャリア教育については、文学部全体で取り組んでいる学生のTOEIC受験に加え、海外留学・語学研修参加の奨励、英語教員志望者予備講習会の開催、大学院進学相談などの取り組みを継続している。	A		
2) 学部・学科独自の評価項目①	(独自に設定してください)	100	(独自に設定してください)		特になし			
3) 学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	101	(独自に設定してください)					
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102	(独自に設定してください)					
		103						
		104						
		105						

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 文学部 英語コミュニケーション学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1) 理念・目的

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1	学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	・学科において、「人材の養成に関する目的」、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A		
		2	学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	・学部、各学科の目的	学科の目的は教育基本法の「真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」と整合しており、高等教育機関として適切であるといえる。	A		
		3	学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・「建学の精神」、「大学の理念」、「学部、各学科の目的」	学科の目的は、大学の理念である「国際的人材の育成」を根本としており、学科の目指すべき方向性や達成すべき成果を学部パンフレットにより明らかにしている。	A		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4	学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・「大学基礎データ」表2	人的には、最低限の人数で運営しており、人事配置の改善が望まれる。	B		
	個性化への対応	5	学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	・学部、各学科の目的	・学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「総合的教養教育」の機能を踏まえて、学部、各学科の個性・特色を打ち出し設定されている。	A		
2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6	教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知ろう状態になっているか。	・学部、各学科の目的	学科の目的および目標を『履修要覧』およびホームページに記載して、学生および教職員に配付している。	A		
		7	学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・『履修要覧2012』 ・大学ホームページURL	学科開設10周年を迎えた際に、学科創設の理念・教育目標を確認する「特集号」を専任教員全員で編集してある。	A		
	社会への公表方法	8	受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知ろう状態になっているか。	・『東洋大学2012 Guide Book』 ・『学部 パンフレット』 ・大学ホームページURL	・大学、学部パンフレットでは学科の「人材の養成に関する目的」を直接記載はしていないが、目的を、より分かりやすい形で記載している。 ・学科の目的は、ホームページに記載している。	A		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的な検証を行っているか		9	学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・学科会議資料	学科会議により、毎年検証している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3)教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・東洋大学教員資格審査基準 ・文学部教員資格審査内規	・「東洋大学教員資格審査基準」に照らし、さらに「文学部教員資格審査内規」を定めている。	A		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・文学部教授会議事録 ・文学部主任(学科長)会議事録	・毎月1回開催される定例の主任(学科長)会が、学部や各学科における教育研究に関する諸問題について、連携・調整を図っている。 ・ただし、「学科主任(学科長)」に関する規定および職掌は学則にはなく、不明確である。主任(学科長)会議事録は公開されていない。	C	・大学として「学則」に「学科主任(学科長)」の規定を明確化する。 ・文学部内の規定として、主任(学科長)会議の規定を明文化する。	2013年度中
	教員構成の明確化	16 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・学科会議資料	人事案件の審議の際に、学科で議論し、随時明確化させている。ただし、明文化されていない。	B		
		17 学部、各学科の個性、特色を發揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・学科会議資料	外国人教員の役割、担当科目は明確化されており、新規人事のみに学科会議で確認している。	A		
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・「大学基礎データ」表2	0.5枠分未補充である。	C	2015年度4月からの補充に向けて準備中である。	
		※19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」表2	・専任教員の半数は教授となっている。	A		
		20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・大学基礎データ(表A)	・ ～30歳:0.0%(前年比±0.0%) ・31～40歳:10.5%(−1.6%) ・41～50歳:20.0%(−3.2%) ・51～60歳:36.8%(+4.4%) ・61歳～ :32.6%(+0.3%) 2012年度よりも51歳以上が若干増加しており、偏りが広がっている。	B		
		21 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。		十分な人事配置ではないかも知れないが、現在のところ編成方針に則って編成されている。	B		
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	22 専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・文学部教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定内規	・新規採用に際しては、文学部資格審査委員会において、教育研究業績と担当科目との「科目適合」について審議している。	A		

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 東洋大学教員資格審査委員会規定 文学部教員資格審査委員会規定 文学部教員資格審査委員会規定内規 文学部教授会議事録 	<ul style="list-style-type: none"> 全学の規定に照らして、学部教員資格審査委員会規定を定め、手続きを明確化している。教授会を通して全専任教員に周知している。 	A		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 文学部教授会議事録 	<ul style="list-style-type: none"> 採用、昇格は教授会に於いて規定に則った方法で適切に行われている。 	A		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> 『2011年度東洋大学文学部年次報告書』P.101～225 東洋大学研究者情報データベース(RIS) 文学部紀要 文学部自己点検・評価委員会議事録 文学部FD講演会チラシ 	<ul style="list-style-type: none"> 左記の資料およびデータベースに各教員の研究業績、教育実績、社会活動貢献等の情報を掲載している。 自己点検・評価活動の一環として学部でFD講演会や研修会を開催し、教員資質向上に取り組んでいる。 	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	東洋大学研究者情報データベース(RIS)	<ul style="list-style-type: none"> 人事考査に係るような、教員の教育研究評価は実施していない。 教員相互の教育研究活動の評価として、「東洋大学研究者情報データベース」に各自の教育研究活動を公表している。 更新率は100%(2013年7月17日現在) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学部として教員の「評価」は実施する予定はない。 教員の研究活動を公表している「東洋大学研究者情報データベース」の更新を促進する。 教育活動等を公表している『東洋大学文学部紀要』や『文学部年次報告書』の公開のあり方や情報の整備を検討する 	

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	・学部および各学科において、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」を定めている。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	・学科 ディプロマ・ポリシー	・各学科において、ディプロマ・ポリシーを定めている。	A		
		29 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・学科 教育目標 ・学科 ディプロマ・ポリシー	・各学科の教育目標とディプロマ・ポリシーは整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	・学科 ディプロマ・ポリシー	・各学科のディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されている。	A		
2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31 カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・学科 カリキュラム・ポリシー	・各学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。	A		
		32 カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・学科 カリキュラム・ポリシー ・学科 教育目標 ・学科 ディプロマ・ポリシー	・各学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合している。	A		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33 カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	・学科 カリキュラム・ポリシー ・学科 教育課程表	語学科目および、コミュニケーション分野、英語学分野、国際理解分野という区分を配し、必要な科目、単位数を設定している。	A		
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34 教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしておき、かつ、その周知方法が有効であるか。	・大学ホームページURL	語学科目および、コミュニケーション分野、英語学分野、国際理解分野という区分を配し、必要な科目、単位数を設定している。	B		
	社会への公表方法	35 受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・大学ホームページURL	・学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36 教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・学科内資料	「コミュニケーション分野」、「言語分野」、「国際理解分野」を核となる3つの学習分野と位置づけしており、3つの学習分野の整合性を踏まえ、開講科目の検討、教授法の適切性などについて学科会議の際に継続的に検証をしている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	『学部 授業時間割表 2012』	・必修科目はすべて開講している。 今回は2012年度の資料を提出するので以下は削除 ↓ ・選択科目では、「高等英文法」が、担当者の長期研修により、2011年度は休講となっている。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・学科 教育課程表 ・シラバス	・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を適切に設定している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	履修要覧	『履修要覧』において、「一般教養的科目」と「専門科目」の位置づけと役割を、学生に向けて説明している。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・学科 カリキュラム・ポリシー ・学科 教育課程表	・教育課程は、カリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・学科 教育課程表 ・該当科目 シラバス	「学士力」に対応するために、「多文化・異文化に関する知識の理解」の育成については、国際理解分野の科目群により対応。コミュニケーション・スキルの育成については、コミュニケーション分野の科目群にて対応している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・学科 教育課程表	年度初頭にクラス分けテストを行い、習熟度別のクラス編成を実施している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	・学科 教育目標 ・学科 教育課程表	・双方向型の授業が望ましい分野・領域については、少人数のクラス形態を設定。卒業論文などのスキルや個別指導が必要なものについては演習形式の形態を設定している。	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	・学科 教育課程表	・セメスター制を導入しており、履修登録の上限単位数を、1セメスターにつき24単位(1年間で48単位)に定めている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	・学科 教育課程表	語学科目については、個別指導がしやすいように配慮し、会話中心の科目で20名以下、それ以外の語学科目でも30名を目安として設定している。	A		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	・学科 カリキュラム・ポリシー ・学科 教育課程表	・教育方法は、カリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・「シラバス依頼時の文書」 ・全シラバス(CD-ROM)	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、また、折にふれて学科内でシラバスをチェックし、不足があれば、担当教員に加筆・修正を依頼している。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	・「授業評価アンケート結果(全体集計)」	・「授業評価アンケート」における「シラバスのとおり授業内容が進んでいるか」について調査しており、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合している。	A		

3)成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	・「シラバス依頼時の文書」 ・全シラバス(CD-ROM)	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、また、折にふれて学科内でシラバスをチェックし、不足があれば、担当教員に加筆・修正を依頼している。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・学科 教育課程表	・各授業科目の単位数は、大学設置基準に従い、 講義科目:半期15週で2単位 演習科目:半期15週で2単位 実験・実習科目:半期15週で1単位 卒業論文:4単位 を原則として、適切に設定している。	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・「白山キャンパス学年暦 2012」	・大学設置基準に沿って設定している。 以下は削除 ↓ 平成23年度については、本来14回+定期試験の予定であったが、震災の影響による文部科学省の指導等により、今年度は授業日数を短縮している。	A		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・「学部単位認定の申し合わせ」	・単位の認定にあたっては、「学部単位認定の申し合わせ」に従い、教務委員会において原案を作成し、教授会にて審議して決定している。	A		
4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。		個人レベルで情報交換、調整等を行っているが、学科全体で組織的な研修を行っていない。学部レベルで対応している。	B		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的の実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。		個人レベルで情報交換、調整等を行っているが、学科全体で組織的な研修を行っていない。学部レベルで対応している。	B		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・適用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・「授業評価アンケートについて」 ・「授業評価アンケート結果」 ・「授業評価アンケート結果に対する改善方策の提出について」	・授業評価アンケートを毎年実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、各教員にはアンケート結果に対する改善方策を提出してもらい、冊子化して全教員に配付している。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。		卒業時アンケートを毎年実施している。	A		
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・『学部 履修要覧 2012』	・『履修要覧』に卒業要件を明示するとともに、新入生ガイダンスおよび進級時のガイダンス時に繰り返し周知している。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・学科 ディプロマ・ポリシー ・学科 卒業要件	・卒業要件は、おおむねディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行っている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・学科 アドミッション・ポリシー	・学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・学科 アドミッション・ポリシー	・学科のアドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。	A		
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準等の明示	61 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・『入学試験要項 2013』 ・大学ホームページURL	・学科のアドミッション・ポリシーは、全学の『入学試験要項』およびホームページにおいて公開している。	A		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・『入試システムガイド 2013』	・各入試方式とも、募集人員、選考方法を、『入試システムガイド』にて受験生に明示している。	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・大学HP『入試システムガイド』	・一般入試では、「学力を確認する」という方針に則り、3科目試験としており、推進入試では、「学生の多様性の確保」という方針に則り、高等学校長の推薦を優先とした受け入れとしている。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・「全学入試委員会規程」 ・「学部 教授会規程」 ・「学部 入試委員会規程」	・全学入試委員会、学部教授会、学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を実施している。	A		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・「大学基礎データ 表3」	・学科の各入試方式において、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
		66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・学科 アドミッション・ポリシー ・『入試システムガイド 2013』	・入試方式や募集人員、選考方法は、おおむねアドミッション・ポリシーに従って設定している。	A		

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学人数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。	・「大学基礎データ 表3」	学科における過去5年の入学定員に対する入学人数比率の平均は1.24であり、望まれる範囲内である。	A		
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。	・「大学基礎データ 表3」	学科における収容定員に対する在籍学生数比率は1.29であり、望まれる範囲(0.90～1.25)をわずかに上回っている。	C	少人数制必修授業、単位僅少者面接、担任・副担任制度等を通して更にきめの細かい指導を行い、卒業率を高める。	2015年度を目標に解決を図る。
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	・「大学基礎データ 表4」	・編入学定員は定めていない。編入学入試は、欠員補充を目的に、若干名として行っており、少数の学生の受け入れに止めている。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・「学部 入試委員会議事録」 ・「教授会議事録」	・学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学人数策定の分析を行い、教授会に報告している。	A		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・学科内資料	・アドミッション・ポリシーの適切性について、毎年学科会議において検証している。	A		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・「全学 入試委員会議事録」 ・「学部 入試委員会議事録」	・全学入試委員会および学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証・検討を行っている。学科においても、毎年、学科会議にて審議している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。		現在、哲学教育というテーマで推進している活動等は特になし。	C	学科として、どのような形で推進するのが適切か、現在検討中である。学科の性格上、教育課程表に反映させること(例えば、正規の専門科目の中に哲学教育科目を設置するなど)は難しいであろう。そのため、課外指導の中で推進していく可能性を模索中である。例えば、現在実施している「自立した学習者を育てるための支援プログラム」では、学科で購入した英文リーダー(読本)を学生に貸し付けて1週間で一定ページ数を読みポットフォリオに記録することを義務付けているが、そのリーダーの中に哲学関係の指定・推薦図書を含める等の案である。	
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・4月ガイダンス次第 『文学部 履修要覧(2012年度)』(p. 121) ・文学部紀要 英語コミュニケーション学科編 dialogos 第13号(p. 164)	英語コミュニケーション学科では海外に留学する学生が年々増えているが、その理由としては、学生の英語力が高いこと、学習面での支援が充実していること、制度面での整備がなされていることの3点が挙げられる。交換留学の場合は選考試験が行われるが、英語圏への留学希望者を対象とした選考試験の場合、文学部では合格者の圧倒的多数が本学科の学生である。留学希望者への学科の支援としては、学科内留学単位認定委員会が常時相談に乗る体制をとるとともに、先輩学生による留学体験報告会(後輩学生へのアドバイス・質疑応答等を含む)なども開催している。制度的には、学科内留学単位認定委員会を設け、きめの細かい指導を行っている。留学先で修得した単位を卒業に必要な単位として30単位まで認定する制度を採用しているため留学がしやすくなっている。	A		
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・4月ガイダンス次第 『文学部 履修要覧(2012年度)』(p. 122) ・文学部紀要 英語コミュニケーション学科編 dialogos 第13号(p. 164~165)	英語コミュニケーション学科では、資格検定試験対策についても力を入れている。まず、正規の専門科目の中に、選択科目として「資格検定英語A」及び「資格検定英語B」という科目を設けている。また、高得点を獲得した先輩在校生から後輩学生に受験勉強体験を語ってもらう機会(アドバイスを含む)も設けている。これは、自分の身近にある実際の成功例ということ、非常に励みになっているようである。こうした努力が実って、TOEICで高得点を取る学生が着実に増えてきている。これまでに、TOEICで900点台を取った学生や英検1級の合格者も輩出している。なお、資格検定試験で一定以上のスコアを取れば、それが単位として認定されるという制度も設けている。 また外部の識者(学生の関心の高い職業経験者)を招いて講演会を開催し、講演テーマの他に仕事内容に関する質問にも応じてもらっている。時間確保の関係上、平成24年度は4回の実施であったが、従来は9回開催していた。教員志望の学生のためには、中・高等学校の英語教員をしている卒業生を招き、講演やアドバイスをしてもらっている(英米文学科と共催)。	A		

2) 授業での指導以外に、学生の自立的学習能力を育成するための方策を講じているか	自立的学習能力獲得のための具体的支援策	100	どのような具体策を実施しているか。	・4月ガイダンス式次第 ・「ポートフォリオ」	「自立した学習者を育てるための支援プログラム」を実施している。このプログラムは、1人の専任教員が「学習アドバイザー」として一定数の学生を担当し、年間を通して学習上のサポートを行なっていくというものである。具体的には、学生1人1人に、自分の長期目標と、その長期目標を達成するための短期目標を設定してもらい、その上で、それらの目標を達成するための1週間ごとの学習スケジュールを提出してもらう。そして、各自が立てた学習計画の進捗状況について、学生が教員に報告し、教員がアドバイスを与えるというものである。	A		
3) 主体的な学習を促し英語による発信能力を高めるための方策を講じているか	英語による発信能力養成のための具体的プログラム	101	どのようなプログラムを実施しているか。	・「学生満足度を高めるための特徴ある教育プログラム実施報告」(平成24年度) ・学生作成英文冊子2種類(平成24年度)	少人数編成の技能訓練科目クラスにおいて英語運用能力養成のための訓練を行うとともに、受身型の学習から脱却し、英語による「発信」を重視し英語を「ツール」として使いこなす体験をするための特別プログラムである「プロジェクト遂行・発信型教育プログラム」を実施している。これは、学生が主体となってプロジェクトを企画・推進し、その成果を英語で発信していく(例えば、大学・学科・大学周辺地域・日本文化等を紹介する英文雑誌を作成して学科内外に配布したりするなど)というものである。	A		
4) 授業外での学習および学生生活を支援するための体制を整えているか	具体的学習・学生生活支援策	102	どのような具体策を講じているか。	・「クラス担任/相談・指導内容一覧」	1年生の段階から、日本人の担任・副担任、そしてオールイングリッシュ全般に関していつでも相談に乗ってくれる英語母語話者の教員が各コース(1コース20名程度)についている。また、悩みや問題を抱えている学生をケアするために、各担当教員が必要に応じて学生相談室のカウンセラーや教務課と連携をとりながら卒業までサポートする体制をとっている。	A		
5) 習熟度別クラス編成を実施しているか	習熟度別クラス編成の実施	103	習熟度別クラス編成をどのように行っているか。	・学生への口頭説明原稿 ・TOEIC-IP テストのスコア一覧とコース・クラス配属表(教務課に提出してある)	教育効果や学習効果を高めること、また、学生のニーズに応じた授業を提供することなどを目的として、「国際コミュニケーション科目・英語」および「専門必修科目」の大多数について、英語の、主に運用面における到達度を基にした、習熟度別コースおよびクラス編成を取り入れている。具体的には、毎年実施する「TOEIC-IP テスト」で高スコアを獲得した学生を上級コース・クラスに配属する形をとっている。	A		
6) 入学から卒業までの学生の状況を追跡調査し、将来の入学者に対する教育に役立てているか	学生の状況把握	104	具体的にどのように状況を把握しているか	・アンケート調査	4年次の1月に全員にアンケート調査(入試方式から就職内定状況に至るまでの調査)を実施し、学科長が取りまとめ分析している。	A		
7) 科目の目的や内容を明確にし、同一科目担当者間で認識を共有し連携を取りながら授業を進めているか	同一科目担当者間の連携	105	同一科目担当者間でどのように認識を共有し授業運営を行っているか。	・科目の目標および授業内容を明文化した文書	専任教員(の中心者)が科目の目標および授業内容を明文化した文書原案を作成し、他教員(非常勤講師を含む)と相談の上、必要に応じ修正を加えた後、確定版を作成する。確定版に基づいて授業を運営する。	A		

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 文学部 史学科

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方法	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	『学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程』	・学科において、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」において定めている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的（教育基本法、学校教育法参照）と整合しているか。	『履修要覧 2013』p.88	・学科の目的は、学校教育法の「第83条」と整合しており、高等教育機関として適切であるといえる。	A		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	『建学の精神』 『履修要覧 2013』p.88	・学科の目的は、建学の精神である「建学の基礎は哲学にあり」「独立自治」「知徳兼全」を根本としている。また、学科の目指すべき方向性や達成すべき成果は明らかにされている。	A		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	『履修要覧 2013』p.88 大学ホームページ「実学科教員紹介」 (http://www.toyo.ac.jp/site/dhis/professor07.html)	・学科の目的は、専任教員の教育・研究実績や、現在の教育・研究状況からみて、適切なものとなっている。	A		
		5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	『履修要覧 2013』p.88	・学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「幅広い職業人養成」と「総合的教養教育」の機能で踏まえており、学科の個性・特色を打ち出す方針で設定されている。	A		
2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態になっているか。	『履修要覧 2013』p.88 大学ホームページ (http://www.toyo.ac.jp/site/dhis/)	・学科の目的を、『履修要覧』に記載して、学生および教職員に配付している。 ・学科の目的と教育目標は、ホームページに記載されている。	A		
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。		・学科の目的の周知方法の有効性については、定期的な検証を行っていない。	C	・定期的な検証の実施については、文学部全体として行うことを提案したい。	・2014年度
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態になっているか。	『東洋大学 2013 Guide Book』p.25 『文学部 パンフレット』p.18。 大学ホームページ (http://www.toyo.ac.jp/site/dhis/)	・大学と学部パンフレット、大学ホームページにおいて、学科における教育の理念と目的について、明確な形で記載されている。	A		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	『東洋大学 2013 Guide Book』p.25 『文学部 パンフレット』p.18	・学科の理念・目的の適切性については、毎年、大学と学部のパンフレットを作成する過程で、学科教員による定期的な検証を行っている。	A			

(3)教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・東洋大学教員資格審査基準 ・文部部教員資格審査内規	・「東洋大学教員資格審査基準」に照らし、さらに「文部部教員資格審査内規」を定めている。	A		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・文部部教授会議事録 ・文部部学科長会議事録	・文部部は現在7学科を擁しており、学部としての教育研究の責任は「文部部教授会」が担っている。しかし、実際には、各学科ごとの教育研究の責任所在が不明瞭なままに推移している。 ・毎月1回開催される定例の学科長会議が、各学科における教育研究に関する諸問題について、連携・調整を図っている。 ・ただし、「学科長」に関する規定および職掌は学期ごとはなく、不明確である。学科長会議議事録は公開されていない。その点で、各学科の教育研究の責任が教授会以外には明確に規定されていないと見える。	C	・学部の教学ガバナンスをどのように構築するかという問題を、今後、教授会や学科長会議を通じて、検討していく。	2014年度中
	教員構成の明確化	16 学部の目的を表現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	文部部史学科会議事録	・明文化した教員組織の編制方針はないが、学科会議での議論などを通じて教員同士で方針を共有している。	A		
		17 学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	文部部史学科会議事録	・契約制外国人教員については、史料読解などの専門能力の育成のため教員が入学から卒業まで継続して一人の学生を指導できることが望ましいという歴史教育の特性に鑑みて、史学科としては採用を考慮している。 ・任期制教員については、助教に限り採用している。 ・非常勤講師については、専任教員の専攻分野以外についても幅広く教育を行うという方針を実現するため、積極的に採用している。	A		
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※ 18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	「大学基礎データ」表2	・史学科に割り当てられた専任教員数は、本年度に2名新たに採用し、10名の定員を充足している。	A		
		※ 19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	「大学基礎データ」表2	・学部において、専任教員10名(助教除く)のうち、8名が教授となっている。	A		
	20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	平成25年度 教員年齢構成表	・～30歳:0.0% (前年比±0.0%) ・31～40歳:11.5% (+1.0%) ・41～50歳:24.0% (+4.0%) ・51～60歳:35.4% (-1.4%) ・61歳～ :29.2% (-3.4%) 前年度より6.50歳以下が増加しており、偏りは是正されている。	A			
		21 教員組織の編制方針に則って教員組織が編制されているか。	・平成25年度 教員組織(大学基礎データ表2)	・明文化した教員組織の編制方針はないが、教員数など、学部としての編制方針などに十分に満たしている。	A		
	22 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・文部部教員資格審査委員会規定 ・文部部教員資格審査委員会規定内規	・新規採用に関しては、文部部資格審査委員会において、教育研究業績と担当科目との「科目適合」について審議している。	A		
3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	23 教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	・東洋大学教員資格審査委員会規定 ・文部部教員資格審査委員会規定 ・文部部教員資格審査委員会規定内規 ・文部部教員資格審査に関する申し合わせ事項 ・文部部教授会議事録	・全学の規定に照らして、学部の教員資格審査委員会規定を定め、手続きを明確化している。教授会を通して専任教員に周知している。	A			
	24 規程等に従った適切な教員人事	・東洋大学教員資格審査委員会規定 ・文部部教員資格審査委員会規定 ・文部部教員資格審査委員会規定内規 ・文部部教員資格審査に関する申し合わせ事項 ・文部部教授会議事録	・採用、昇格は教授会に於いて規定に則った方法で適切に行われている。	A			
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	25 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	『2011年度 東洋大学文部部年次報告書』P.101～125 ・東洋大学研究者情報データベース(RIS) ・文部部自己点検・評価委員会議事録 ・文部部FD講演会チラシ	・左記の資料およびデータベースに各教員の研究業績、教育実績、社会活動実績等の情報を掲載している。 ・自己点検・評価活動の一環として学部でFD講演会や研修会を開催し、教員資質向上に取り組んでいる。	A			
	26 教員の教育研究活動等の評価の実施	東洋大学研究者情報データベース(RIS)	・人事考査に係るような、教員の教育研究評価は実施していない。 ・教員相互の教育研究活動の評価として、「東洋大学研究者情報データベース」に各自の教育研究活動を公表している。	B	・文部部として教員の「評価」を実施する予定はなく、史学科もこうした方針に従う。 ・「東洋大学研究者情報データベース」の更新を促進する。		

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	提供資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	・学科において、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」のなかで定めている。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 デイプロマ・ポリシーを設定しているか。	・学科 デイプロマ・ポリシー(大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html)	・学科において、デイプロマ・ポリシーを定めている。	A		
		29 教育目標とデイプロマ・ポリシーは整合しているか。	・学科 教育目標(大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/dhis/) ・学科 デイプロマ・ポリシー(大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html)	・デイプロマ・ポリシーは本学科の目的が達成されたと思われる者に学位を授与するとされており、学科の教育目標とデイプロマ・ポリシーは整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 デイプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	・学科 デイプロマ・ポリシー(大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html)	・学科のデイプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されている。	A		
2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31 カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・学科 カリキュラム・ポリシー(大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html)	・学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。	A		
		32 カリキュラム・ポリシーは、教育目標やデイプロマ・ポリシーと整合しているか。	・学科 カリキュラム・ポリシー(大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html) ・学科 教育目標(大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/dhis/) ・学科 デイプロマ・ポリシー(大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html)	・学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標やデイプロマ・ポリシーと整合している。	A		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33 カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	・学科 カリキュラム・ポリシー(大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html) ・学科 教育課程表 (http://www.toyo.ac.jp/nyushi/pdf/learning/undergraduate/lt/dhis/curriculum_01.pdf)	・学科では、カリキュラム・ポリシーに対応して、科目区分として、「歴史学基礎演習」「史料研究」「卒業論文を必修としている。	A		
3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34 教職員・学生が、デイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にあり、かつ、その周知方法が有効であるか。	『履修要覧 2013』p.88 大学入試情報サイト (http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html)	・学科のデイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、履修要覧およびホームページで公開されている。	A		
	社会への公表方法	35 受験生を含む社会一般が、デイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・大学入試情報サイト (http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html)	・学科のデイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開されている。	A		
4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか	36 教育目的、デイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・大学入試情報サイト (http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html) ・学科会議事録	・教育目標、デイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性について、毎年ホームページを更新する際に学科会議および各人で検証を行っている。	A			

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	必要な授業科目の開設状況	37 教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	『学部 授業時間割表 2013』	・必修科目・選択科目はすべて開講している。	S		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38 教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・学科 教育課程表 (http://www.toyo.ac.jp/mushi/pdf/learning/undergraduate/it/dhis/curriculum_01.pdf)	・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を適切に設定している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39 教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	『文学部 履修要覧 2013』 pp.90-100。 ・学科 教育課程表 (http://www.toyo.ac.jp/mushi/pdf/learning/undergraduate/it/dhis/curriculum_01.pdf)	・『履修要覧』と「教育課程表」において、「文学部共通科目」と「専門科目」の位置づけと役割を、学生に向けて説明している。	A		
		40 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・学科 カリキュラム・ポリシー(大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/mushi/learning/undergraduate/it/dhis/policy.html) ・学科 教育課程表 (http://www.toyo.ac.jp/mushi/pdf/learning/undergraduate/it/dhis/curriculum_01.pdf) ・該当科目 シラバス	・教育課程は、カリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41 中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・学科 教育課程表 (http://www.toyo.ac.jp/mushi/pdf/learning/undergraduate/it/dhis/curriculum_01.pdf) ・該当科目 シラバス	・カリキュラムの中で日本史学卒業論文など卒業論文指導のための科目を設け、中教審答申において求められている「学士力」の育成に対応している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42 専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・学科 教育課程表 (http://www.toyo.ac.jp/mushi/pdf/learning/undergraduate/it/dhis/curriculum_01.pdf)	・1年次に、日本史・東洋史・西洋史それぞれの「概論」と「歴史学基礎演習」を選択必修として配置し、前者では高校までの歴史教育との連続性に配慮した初年次教育、後者では専門教育への導入となる授業を実施している。	A		

「教育方法」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	提供資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43 教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	・学科 教育目標(大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/dhis/) ・学科 教育課程表 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/pdf/learning/undergraduate/lt/dhis/curriculum_01.pdf	・技術修得が必要な領域・分野については、「歴史学基礎演習」「史料研究」「史学演習」「卒論演習」等の演習科目を、専門的研究内容に触れるための分野・領域については、「特講」を中心とする講義科目を適宜、配置している。	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	44 単位の充実化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を30単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	『文学部 履修要覧 2013』p.94	・年間履修最高単位数を、48単位に定めている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45 学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	・学科 教育課程表 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/pdf/learning/undergraduate/lt/dhis/curriculum_01.pdf	・学生が主体的な学習態度を身につけられるように、1年次より4年次まで、少人数による演習科目を選択必修としている。	A		
		46 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	・学科 カリキュラム・ポリシー(大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html) ・学科 教育課程表 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/pdf/learning/undergraduate/lt/dhis/curriculum_01.pdf	・教育方法は、カリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47 シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバス依頼時の文書 ・全シラバス(CD-ROM)	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っている。その結果、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)について、シラバスに具体的に記載されている。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48 授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	・「2012年度秋学期 授業評価アンケート集計結果」	・「授業評価アンケート」における「シラバスのおおむね授業内容が盛り込まれているか」の回答は、肯定的な回答が94%であり、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合している。	A		

3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	・シラバス依頼時の文書 ・全シラバス(CD-ROM)	・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っている。その結果、「成績評価の方法・基準」について、複数の方法により評価する場合には、その割合や成績評価基準がシラバスに明示されている。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・学科 教育課程表 (http://www.toyo.ac.jp/nyushi/pdf/learning/undergraduate/ir/dhis/curriculum_01.pdf)	・各授業科目の単位数は、大学設置基準に従い、講義科目:半期15週で2単位 演習科目:半期15週で1単位 実験・実習科目:半期15週で1単位 卒業論文:4単位 を原則として、適切に設定している。	A		
		51	各授業科目の授業時間は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・「白山キャンパス学年暦 2013」	・半期15回、年間30回に設定している。	A		
	52	既修得単位認定の適切性	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続さに従って、合計0.5単位以下で行っているか(編入学生を除く)。	・「学部単位認定の申し合わせ」	・単位の認定にあたっては、「学部単位認定の申し合わせ」に従い、教務委員会において原案を作成し、教授会において審議、決定している。	A		
4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・「東洋大学FDニュース」	・東洋大学FD推進センターが中心となって、年に数回文学部による研修会を設けている。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的に実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	・「東洋大学FDニュース」	・東洋大学FD推進センターが中心となって、年に数回の学部研修会を実施し、その成果を「東洋大学FDニュース」に公開している。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点	判断基準および評価のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方法	改善時期
1) 教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・「授業評価アンケートについて」 ・「2012年度授業評価アンケート結果」 ・「授業評価アンケート結果に対する改善案の提出について」	・授業評価アンケートを春学期と秋学期に二度実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、各教員にはアンケート結果を通知して、授業内容の改善に資するよう促している。	A	
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	・「2012年度文学部卒業生アンケート結果」	・毎年度の卒業時に文学部よりアンケートを実施したが、その他については実行に至っていない。	B	・定期的な検証の実施については、文学部全体として行うことを提案したい。
2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知れる状態にしているか。	『文学部 履修要覧 2013』 p.90	・新入生全員に『文学部 履修要覧』を配布し、学生が知れる状態にしている。	A	
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・学科 ディプロマ・ポリシー(大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/ir/dhis/policy.html) ・学科 卒業要件	・ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っている。	A	

(5)学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・史学科 アドミッション・ポリシー(大学入試情報サイト) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html	・学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準を明らかにしているか。	・史学科 アドミッション・ポリシー(大学入試情報サイト) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html	・学科のアドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。	A		
		61 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	『入学試験要項』 大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html	・学科のアドミッション・ポリシーは、全学の『入学試験要項』およびホームページにおいて公開されている。	A	
2)学生の受け入れ方針に基づき、公定かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	『入試システムガイド』	・各入試方式とも、募集人員、選考方法を、『入試システムガイド』にて受験生に明示している。	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	『入試システムガイド』	・一般入試では、「総合的学力を審査する」という方針に則り、3教科型の試験を実施し、3月入試では、日本史、世界史の配点を他科目の1.5倍とし記述方式で短文を書かせるなど、「歴史」の学力を重視する選考を実施している。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・「全学入試委員会規程」 ・「学部 教授会規程」 ・「学部 入試委員会規程」	学生募集、入学者選抜を適切に行うために、教員の配置など必要な体制を整備している。	A		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・「大学基礎データ 表4」	・募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
		66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・学科 アドミッション・ポリシー(大学入試情報サイト) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lt/dhis/policy.html ・「入試システムガイド」	入試方式や募集人員、選考方法は、おおむねアドミッション・ポリシーに従って設定している。	A		
		67 学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲内となっているか。	・「大学基礎データ 表4」	・史学科は1.21で、範囲内となっている。	A		
3)適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※68 学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲内となっているか。	・「大学基礎データ 表4」	・史学科は2013年度において1.25で、範囲内となっている。	A		
		※69 学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲内となっているか。また、編入学を若干名で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	・「大学基礎データ 表4」	・編入学定員は定めていない。編入学入試は、欠員補充を目的に、若干名として行っており、過去5年の入学者数は、毎年1～2名である。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70 定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・「学部 入試委員会議事録」 ・「教授会議事録」	・定員超過または未充足については、規定の範囲内にとどまっております。原因調査と改善方策の立案は行っていません。	A		

4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。	71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・大学入試情報サイト (http://www.toyo.ac.jp/mushi/learning/undergraduate/edu/policy.html) ・学科会議議事録	・アドミッション・ポリシーの適切性について、毎年入試の形態を検討する際、学科会議で検証を行い、改善を促している。	A		
	72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・「全学 入試委員会議事録」 ・「学部 入試委員会議事録」	・全学入試委員会および学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証・検討を行っている。	A		

(11) その他

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97 教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	『履修要覧 2013』pp.88-99 文学部 パンフレット	・科学的・実証的な歴史研究の研鑽を通して、過去の人類の歴史から現在を理解し、未来に生きる知恵を汲み取ることが出来る能力の養成を目指す ・「科学的・実証的な歴史研究の研鑽を通して、過去の人類の歴史から現在を理解し、未来に生きる知恵を汲み取ることが出来る能力の養成を目指す」の理念に基づき、古今東西の歴史を通して哲学的な思考の涵養につとめている ・専門科目で第1学年に西洋哲学史概観Ⅰ、第2学年に西洋哲学史概観Ⅱ、第3学年に哲学概論を選択できるようにし、哲学をより深く学習できるようにしている	A		
	国際化	98 教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	『履修要覧 2013』pp.88-100 文学部 パンフレット 『史学科2012年度海外研修旅行記録集』	・日本史、東洋史、西洋史の3分野からなるカリキュラムを実施し、第1学年では日本史概観、東洋史概観、西洋史概観のいずれの科目も履修させるなど、世界的な視野を持つような歴史教育を行っている ・「高学教育の質」では、2013年度より史学科教員の担当による英語ⅠとⅡに履修させ、歴史教育にリンクした内容による英語学習を行っている ・2012年度より希望者を対象に海外研修旅行を実施し、史跡見学や現地大学の歴史学教員との交流など、実地に国際感覚を育む機会としている	S		
	キャリア教育	99 教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	『履修要覧 2013』pp.198-246	・教職課程を設置し、中学校社会科、高校地理歴史・公民の教員免許を取得できるようにしている。 ・博物館学芸員資格取得課程を設置し、学内の井上円了記念博物館と連携して教育を行い、資格を取得できるようにしている。 ・このほか、図書館司書、司書教諭、社会教育主事、社会福祉主事の資格取得も可能な過程を設置している。	A		
2) 学部・学科独自の評価項目①	(独自に設定してください)	100 (独自に設定してください)					
3) 学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	101 (独自に設定してください)					
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102 (独自に設定してください)					

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 文学部 教育学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程 ・『文学部履修要覧2013年度入学生用』P.102	・各学部・学科において左記規程を設けている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	・『文学部履修要覧2013年度入学生用』P.102	・教育基本法第7条および学校教育法第83条の規定に則って作成されており、適切であると言える。	A		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・建学の精神 ・大学の理念 ・『文学部履修要覧2013年度入学生用』P.102	・建学の理念である「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」を基礎に自らの哲学をもつという教育理念に沿った学部・学科の方向性・達成すべき成果を設定している。	A		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・『文学部履修要覧2013年度入学生用』P.102	・学生に教員免許状および諸資格を取得させるため、人的配置は適切なものとなっている。ただし、物的・資金的資源については自覚的な検討を行っていない。	B		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	・『文学部履修要覧2013年度入学生用』P.102	・中央教育審議会答申のうち、特に「高度専門職業人育成」、「幅広い職業人育成」、「総合的教養教育」を視野においた、特色ある学科カリキュラムを構成している。	A		
2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知ろう状態にしているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.102 ・大学HP (http://www.toyo.ac.jp/lit/dedu/index_j.html)	・学部・学科の目的等を『履修要覧』に掲載し全教員・学生に配布するとともに、大学HPにも掲載して閲覧を容易にしている。	A		
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.102 ・大学HP (http://www.toyo.ac.jp/lit/dedu/index_j.html)	・毎年度、『履修要覧』作成の際に、学科全教員により、その記載内容の検討を行っている。	A		
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知ろう状態にしているか。	・『文学部パンフレット』P.20-23 ・『2013MANABI BOOK TOYO UNIVERSITY』P.16-17 ・大学HP (http://www.toyo.ac.jp/lit/dedu/index_j.html)	・左記に、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的等を明記し、受験生・保護者等の閲覧を容易にしている。	A		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか	9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.102 ・『文学部パンフレット』P.20-23	・学科内において、全教員による検討を行っている(『履修要覧』、『文学部パンフレット』作成時等)。	A			

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・東洋大学教員資格審査基準 ・文学部教員資格審査内規	・「東洋大学教員資格審査基準」に照らし、さらに「文学部教員資格審査内規」を定めている。	A		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・文学部教授会議事録 ・文学部学科長会議事録	・毎月1回開催される定例の学科長会議が、学部や各学科における教育研究に関する諸問題について、連携・調整を図っている。 ・ただし、「学科長」に関する規定および職掌は学則にはなく、不明確である。学科長会議事録は公開されていない。	B		
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。		・毎月1回開催される定例の学科長会議及び学科長懇談会が、学部や各学科における教育研究に関する諸問題について、連携・調整を図っている。 ・ただし、「学科長」に関する規定および職掌は学則にはなく、不明確である。学科長会議事録は公開されていない。	A		
		17	学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。		・任期制教員について、明文化するなどの明確化は行っていないが、採用に当たっては学科会議でその目的との適合性を議論している。	A		

2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・「大学基礎データ」表2	・学科の専任教員は定員を充足している。	A		
		※19	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」表2	・学科専任教育の半数超が教授となっている。	A		
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・大学基礎データ(表A)	・～30歳:0.0%(前年比±0.0%) ・31～40歳:10.5%(−1.6%) ・41～50歳:20.0%(−3.2%) ・51～60歳:36.8%(+4.4%) ・61歳～ :32.6%(+0.3%) 2012年度よりも51歳以上が若干増加しており、偏りが広がっている。	B		
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。		・教員免許状および諸資格取得という目的があるため、教員組織の編成はかなりの程度に制約されている。教員組織の編成はこの制約を受けつつ、学科の教育理念に沿って編成されている。	A		
		授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	22	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・文学部教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定内規	・新規採用に際しては、文学部資格審査委員会において、教育研究業績と担当科目との「科目適合」について審議している。	A	
3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・東洋大学教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定内規 ・文学部教授会議事録	・全学の規定に照らして、学部の教員資格審査委員会規定を定め、手続きを明確化している。教授会を通して全専任教員に周知している。	A		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	・文学部教授会議事録	・採用、昇格は教授会に於いて規定に則った方法で適切に行われている。	A		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・東洋大学研究者情報データベース(RIS) ・文学部紀要 ・文学部自己点検・評価委員会議事録 ・文学部FD講演会チラシ	・左記の資料およびデータベースに各教員の研究業績、教育実績、社会活動貢献等の情報を掲載している。 ・自己点検・評価活動の一環として学部でFD講演会や研修会を開催し、教員資質向上に取り組んでいる。	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	東洋大学研究者情報データベース(RIS)	・人事考査に係るような、教員の教育研究評価は実施していない。 ・教員相互の教育研究活動の評価として、「東洋大学研究者情報データベース」に各自の教育研究活動を公表している。	B		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.102	・学科において、学生に修得させるべき教育目標を定めており、『履修要覧』で明示している。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 デイプロマ・ポリシーを設定しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.7	・デイプロマ・ポリシーを設定している。	A		
		29 教育目標とデイプロマ・ポリシーは整合しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.7, 102	・両者は整合したものとなっている。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 デイプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.7	・修得すべき学習成果を明示している。	A		
2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31 カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.7	・カリキュラム・ポリシーを設定している。	A		
		32 カリキュラム・ポリシーは、教育目標やデイプロマ・ポリシーと整合しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.7, 102	・3者は整合性をもつものとなっている。	A		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33 カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.7, 113-116	・カリキュラム・ポリシーに基づき、「教育の基礎」「心理学と発達臨床」「社会教育」「学校教育」「特別支援教育」という5つの重点領域を設定している また、それぞれについて必修科目・選択科目を設置し、単位数も適切に設定している。	A		

3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.7 ・大学HP (http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j.html #12)	・ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、『履修要覧』、大学HPに掲載し、知りうる状態にしてある。	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・大学HP (http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j.html #12) 『文学部パンフレット』P.20, 22	・ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを大学HPに掲載している。また、より一般向けの表現にかえたものを、『文学部パンフレット』に載せている。	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.7	・『履修要覧』の改訂に当たって、学科全教員から意見を聴取する機会を設けている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	・学部授業時間割表	・必修科目・選択科目いずれについても主要科目はすべて開講されている 受講者数が少ない科目については隔年開講等の措置を取っている場合がある。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.115-116	・各領域の専門性とその発展性に鑑み、授業科目の学年配当を行っている 上記については、各学年当初のガイダンスにおいて学生に周知している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.105-116	・各学年(特に入学時)のガイダンスにおいて、履修計画についての説明とともに行っている。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.7, 115-116	・教育学学習における5つの領域の特徴と、その学年進行に合わせた教育課程を構成している。	A		
2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.104-116	・中央教育審議会答申に掲げられる「学士力」のうち、特に「人間の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「論理的思考力情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる」、「問題解決力」、「自己管理能力」、「チームワーク、リーダーシップ」、「市民としての社会的責任」、「生涯学習力」、「統合的な学習経験と創造的思考力」について、これらを育成するにふさわしい教育内容を提供している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.115-116	・1年次から少人数ゼミナールを開講し、春学期開講の「教育学入門ゼミナール」においては、主として初年次教育を、秋学期開講の「教職総合ゼミナール」においては主として専門教育への導入教育を実施している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善策	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.115-116	・1年次からのゼミナールの開講をはじめとして、各授業科目の特性に応じた開講形態をとっている。	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.105-116	・履修登録科目の単位数については、50単位未満の設定となっているが、教員免許状の取得に係る科目履修については十分な設定が行われていない点がある。	B		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.115-116	・ゼミナールを中心に、少人数による授業を実施し、学生の主体的学習を促している。	A		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.7, 115-116	・教育方法は各教科の目的や性格に規定されるため、すべての科目について評価することは困難であるが、おおむね学習成果につながるものとなっている。	B		
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバス作成依頼文書 ・シラバス(CD-ROM、大学HP)	・シラバス作成にあたっては、注意事項等を詳細に記述した文書を作成して全教員に配布している。 ・シラバスについては学科長が点検し、必要な場合には加筆・修正を求めることとなっている。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	『2012(平成24)年度東洋大学文学部年次報告書』P.80-81	・非常勤講師を含む全教員の授業について検証を行っていないが、学科別のアンケート結果をみる限り、おおむねシラバスに沿った授業が行われている。	B		
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	・シラバス作成依頼文書 ・シラバス(CD-ROM、大学HP)	・シラバス作成にあたっては、注意事項等を詳細に記述した文書を作成して全教員に配布している。 ・シラバスについては学科長が点検し、必要な場合には加筆・修正を求めることとなっている。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・大学設置基準 『文学部履修要覧2013入学生用』P.105-116	・大学設置基準に沿った設定となっている。	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・大学設置基準 『文学部履修要覧2012入学生用』P.101-112	・大学設置基準に沿った設定となっている。	A		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・大学設置基準	・おおむね大学設置基準に沿った手続きをとっているが、高等専門学校で修得した単位、TOEIC等については明確な方針を決定していない。	A		

4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・『2012(平成24)年度東洋大学文学部年次報告書』P.80-81	・毎年、「文学部授業評価アンケート」の分析結果を『東洋大学文学部年次報告書』に載せる際に、分析結果を全教員がチェックしているが、他に組織的な研修・研究の機会は設けていない。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的に行われており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	・『2012(平成24)年度東洋大学文学部年次報告書』P.80-81	・「文学部授業評価アンケート」の分析結果を各教員の判断で教育内容・方法等の改善に活かしているが、学科としての組織的な研修・研究とはなっていない。	B		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標の開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。		・学科として評価指標の開発は行っていない。各教員に委ねられている。	B		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	・東洋大学 卒業生アンケート	・東洋大学の統一フォーマットによる卒業時アンケートを実施し、学生に自己評価を求めている。	A		
2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.105-116	・『履修要覧』に要件を明記するとともに、学科による新入生ガイダンス、各学年のガイダンスにおいて説明・周知している。また、単位僅少者面接を行い、卒業までの履修計画についての相談も行っている。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.7, 105-116	・両者は整合している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付することとする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	『文芸学部履修要覧2013入学生用』P.7	・アドミッション・ポリシーを設定している。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	『文芸学部履修要覧2013入学生用』P.7	・学科のアドミッション・ポリシーは学科の教育目的・目標を踏まえ、習得しておくべき知識内容・水準等を明らかにしている。	A		
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	『2013年度東洋大学アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)』P.3 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_admission.pdf) ・大学HP (http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j.html#12)	・学科のアドミッション・ポリシーは、左記に掲載され、一般的にアクセス可能である。	A		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学選抜を行っているか	学生募集方法、入学選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	『2013年度一般入試入学試験要項』, P.10 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_ippan_youkou.pdf) 『2013年度公募制推薦・AO入試入学試験要項』, P.4,13 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_koubo_youkou_all.pdf)	・一般入試については『2013年度一般入試入学試験要項』に、公募制推薦入試については『2013年度公募制推薦・AO入試入学試験要項』に、募集人員、選考方法を明示している。左記の資料はホームページからダウンロード可能である。	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	『2013年度一般入試入学試験要項』, P.10 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_ippan_youkou.pdf) 『2013年度公募制推薦・AO入試入学試験要項』, P.4,13 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_koubo_youkou_all.pdf)	・入試方式の趣旨に適した学生募集等を行っている。特に学校推薦では「総合問題」を採用し、特色ある学生の確保に努めている。	A		
	入学選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	『2013年度一般入試入学試験要項』, P.10 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_ippan_youkou.pdf) 『2013年度公募制推薦・AO入試入学試験要項』, P.4,13 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_koubo_youkou_all.pdf)	・学科会議等で検討しているが、そのための特別な体制づくりは行っていない。	B		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	「大学基礎データ 表3」	・募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
		66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	『2013年度東洋大学アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)』P.3 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_admission.pdf) 『2013年度一般入試入学試験要項』, P.10 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_ippan_youkou.pdf) 『2013年度公募制推薦・AO入試入学試験要項』, P.4,13 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_koubo_youkou_all.pdf)	・おおむねアドミッション・ポリシーに従って設定されている。	A		

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学人数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学、社会福祉学科、文学部教育学科	「大学基礎データ 表4」	・入学定員に対する比率(過去5年間平均)は1.32であった。	A		
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学、社会福祉学科、文学部教育学科	「大学基礎データ 表4」	・収容定員に対する比率は1.14であった。	A		
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	「大学基礎データ 表4」	・編入学定員は定めていない。 ・2012年度については編入学者は1名だった。	B		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善策の立案を行っているか。		・入試課との協議、情報の収集等を行っているが、具体的な改善策の立案には不十分な点がある。	B		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・『2013年度東洋大学アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)』P.3 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_admission.pdf)	・学科において、毎年度、入試方法検討の際などに、アドミッション・ポリシーの検討を行っている。	A		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。		・毎年度、入試結果について学科会議などで検討しているが、そのための常設の組織はしていない。	B		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.115	「教育学概論」「教育と倫理」「アメリカ思想史」等の専門科目において、哲学に関わる内容を扱っている。	B		
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.114	「比較社会論」「比較政策論」「アメリカ思想史」等の専門科目において国際的視野の育成を意識した教育を行っている。	B		
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	「教採カフェ」ニュースNo.1～No.5 ・東京都教師養成塾等、学内推薦募集要項	学科内に「教職サポートチーム」を組織し、教員採用試験受験のための支援、及び各自治体教員採用試験の大学推薦にかかわる学内選考、東京都教師養成塾や埼玉教員養成セミナーを希望する学生の学内選考、セミナー参加学生の指導などを実施している。	A		
2) 学部・学科独自の評価項目①	初等教員養成の実践力育成	100	初等教育養成に関して教育活動の中でどのように実践力を育成しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.7、104 ・往還型教育実習報告書『秤軸』No.4	実践的指導力を育てるため、実習協力校での学習と大学での学習とを結びつけた「往還型教育実習」を実施している。	S		
3) 学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	101	(独自に設定してください)					
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102	(独自に設定してください)					
		103						
		104						
		105						

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 文学部 第2部東洋思想文化学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1) 理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」	第2部東洋思想文化学科は「人材の養成に関する目的」、および「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を定めている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的（教育基本法、学校教育法参照）と整合しているか。	「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」 東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 『文学部履修要覧2013』8頁	第2部東洋思想文化学科の教育目的は、教育基本法第7条、および学校教育法第83条と整合しており、高等教育機関として適切である。	A		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 『文学部履修要覧2013』8頁	建学の精神は、「初学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」であり、東洋を中心とする哲学の理解、また、知識と倫理観を併せ持つことを目標とする第2部東洋思想文化学科の教育目的は、大いに関連性をもっている。	A		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	東洋大学ホームページ「東洋大学学術情報ポータル」 https://toyo.repo.nii.ac.jp/	第2部東洋思想文化学科の教育目的は、教員の教育・研究実績から判断して、適切なものとなっている。ただし、まだ卒業生を出していないので、教育の実績については、十分には把握し切れていない。	B	卒業生が出た時点で、教育目的が実現しているかを検証する。	4年後
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 『文学部履修要覧2013』8頁	第2部東洋思想文化学科の教育目的は、中央教育審議会の答申の「4. 総合的教育」、「7. 社会貢献機能(特に国際交流)」の機能を踏まえて、総合的な文化理解と国際理解、国際交流の特色を打ち出している。	A		
2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態になっているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/site/eepc/ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』8頁	『文学部履修要覧』に学科の教育目的が明示されており、教職員・学生が閲覧できる。また、ホームページにも三つのポリシー、並びに「教育目標」が明示されていて、だれでも閲覧できる。	A		
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。		学科会議の際に随時検討している。今後は議事録を残して、検討の跡が追跡できるようにする予定でいる。	B	議事録については、本年度から整備している。	本年度
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態になっているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/site/eepc/ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』8頁	『文学部履修要覧』に学科の教育目的が明示されており、教職員・学生が閲覧できる。また、ホームページにも三つのポリシー、並びに「教育目標」が明示されていて、だれでも閲覧できる。	A		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。		学科会議の際に随時検討している。今後は議事録を残して、検討の跡が追跡できるようにする予定でいる。	B	議事録については、本年度から整備している。	本年度

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・東洋大学教員資格審査基準 ・文学部教員資格審査内規	・「東洋大学教員資格審査基準」に照らし、さらに「文学部教員資格審査内規」を定めている。	A		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・文学部教授会議事録 ・文学部主任会議事録 ・文学部学科長会議事録	・毎月1回開催される定例の学科長会議が、学部や各学科における教育研究に関する諸問題について、連携・調整を図っている。	A		
	教員構成の明確化	16 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。		第2部東洋思想文化学科は、インド哲学学科と中国哲学文科学科を合併する形で成立したため、旧2学科の教員をそのまま引き継いでおり、現時点では、自発的に教員の編成方針を明らかにできる状況にはない。	B	新教員を採用できるようになった時点で、コースごとの希望学生数などを勘案しながら、教員組織の編成方針を決める予定である。	数年後
		17 学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。		具体的な編成方針はまだ打ち出していないが、学科会議等で随時検討している。今後は議事録を残して、検討の跡が追跡できるようにする予定である。	B	議事録については、本年度から整備している。	本年度
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	「大学基礎データ」表2	現在、学科に割り当てられた専任教員数は充足している。	A		
		※19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	「大学基礎データ」表2	現在、専任教員数の半数以上が教授となっており、大学設置基準の該当事項を充たしている。	A		
		20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	「平成25年度教員年齢構成表」	低年齢層の比率が少ない点に、若干の問題を残している。	B		
		21 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。		2学科の合併によって新たに成立した学科であり、教員の編成方針を自発的に明らかにし、編成できる段階にない。	B	新教員を採用できるようになった時点で、コースごとの希望学生数などを勘案しながら、教員組織の編成方針を決め、それにそって編成する予定である。	数年後
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	22 専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・文学部教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定内規	・新規採用に際しては、文学部資格審査委員会において、教育研究業績と担当科目との「科目適合」について審議している。	A		

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋大学教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定内規 ・文学部教授会議事録 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学の規定に照らして、学部の教員資格審査委員会規定を定め、手続きを明確化している。教授会を通して全専任教員に周知している。 	A		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・文学部教授会議事録 	<ul style="list-style-type: none"> ・採用、昇格は教授会に於いて規定に則った方法で適切に行われている。 	A		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋大学研究者情報データベース(RIS) ・文学部紀要 ・文学部自己点検・評価委員会議事録 ・文学部FD講演会チラシ 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の資料およびデータベースに各教員の研究業績、教育実績、社会活動貢献等の情報を掲載している。 ・自己点検・評価活動の一環として学部でFD講演会や研修会を開催し、教員資質向上に取り組んでいる。 	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	東洋大学研究者情報データベース(RIS)	<ul style="list-style-type: none"> ・人事考査に係るような、教員の教育研究評価は実施していない。 ・教員相互の教育研究活動の評価として、「東洋大学研究者情報データベース」に各自の教育研究活動を公表している。 	B		

(4)教育内容・方法・成果

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27	教育目標を明示しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/site/eepc/ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』8頁	第2部東洋思想文化学科は、ホームページや各種刊行物に教育目標を明示している。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28	ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』147頁	第2部東洋思想文化学科はディプロマ・ポリシーを設定している。	A		
		29	教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』147頁	第2部東洋思想文化学科の教育目標とディプロマ・ポリシーは整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30	ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』147頁	第2部東洋思想文化学科のディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されている。	A		

2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』147頁	第2部東洋思想文化学科はカリキュラム・ポリシーを設定している。	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』147頁	第2部東洋思想文化学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標およびディプロマ・ポリシーと整合している。	A		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』147頁	第2部東洋思想文化学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて、課程表において、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が適切に行われている。	A		
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』147頁	第2部東洋思想文化学科のディプロマ・ポリシー、およびカリキュラム・ポリシーは、ホームページ、および『文学部履修要覧2013』において公開されている。	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』147頁	第2部東洋思想文化学科のディプロマ・ポリシー、およびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開されており、受験生、および社会一般が自由に閲覧できる。	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。		学科会議の際に随時検討している。今後は議事録を残して、検討の跡が追跡できるようにする予定でいる。	B	議事録については、本年度から整備している。	本年度

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	『文学部履修要覧2013』156-165頁「第2部東洋思想文化学科課程表」 『文学部授業時間割表2013』	「必修科目」、「専門科目」とも、課程表に沿って開講している。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	『文学部履修要覧2013』156-165頁「第2部東洋思想文化学科課程表」	授業科目の専門性、難易度に沿って、配当学年を体系的、かつ適切に設定している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	『文学部履修要覧2013』146頁、150-155頁	『履修要覧』において、「共通総合科目」「文学部共通科目」「専門科目」の位置づけと役割を学生に向けて説明している。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』147頁 『文学部履修要覧2013』156-165頁「第2部東洋思想文化学科課程表」	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている。	A		
2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	『文学部履修要覧2013』156-16頁「第2部東洋思想文化学科課程表」 全科目のシラバス	「学士力」の四つの柱のそれぞれを主として以下の科目群で養成するよう配慮している。 1. 知識・理解: 「共通総合科目」「文学部共通科目」「専門科目」の全科目 2. 汎用的技能: 「共通総合科目」「文学部共通科目」「東洋思想文化演習Ⅰ」「東洋思想文化演習Ⅱ」「卒論指導」「卒業論文」 3. 態度・指向性: 「東洋思想文化演習Ⅰ」「東洋思想文化演習Ⅱ」 4. 総合的な学習経験と創造的思考力: 「東洋思想文化演習Ⅰ」「東洋思想文化演習Ⅱ」「卒論指導」「卒業論文」	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	『文学部履修要覧2013』156-16頁「第2部東洋思想文化学科課程表」 「東洋思想文化への誘いA」「東洋思想文化への誘いB」「レポート・論文制作の技法」のシラバス	1年次に「東洋思想文化への誘いA」「東洋思想文化への誘いB」「レポート・論文制作の技法」を必修として、初年次教育・専門教育への導入教育と位置づけている。 高大連携については、旧インド哲学科で、毎年、数名の高校生を受け入れていたので、東洋思想文化学科でも、高校生の受講可能な時間帯に初歩的な内容の科目を置いて受け入れを継続する方向で検討中である。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 『文学部履修要覧2013』147頁 『文学部履修要覧2013』156-165頁「第2部東洋思想文化学科課程表」	教育目標を達成するために、「講義科目」「演習科目」「実技講義科目」「語学科目」「実技科目」「海外文化研修」等の種々の授業形態の科目を設置し、適切に配置している。	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	『文学部履修要覧2013』153-155頁	履修登録の上限を、1年間48単位と定めている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	『文学部履修要覧2013』156-165頁「第2部東洋思想文化学科課程表」	2-3年次に少人数の「東洋思想文化演習Ⅰ」「東洋思想文化演習Ⅱ」を必修としており、個別指導を含む4年次必修の「卒論指導」と併せて、学生に主体的な学習を促すことに配慮している。	A		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』147頁 『文学部履修要覧2013』156-165頁「第2部東洋思想文化学科課程表」 全科目のシラバス	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっている。	A		
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	シラバス依頼時の文書「平成25年度東洋大学シラバス作成に当たってのお願い」「シラバス作成要項(作成例を含む)」 全科目のシラバス	各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、また、学科主任がシラバスをチェックし、問題があれば、担当教員に加筆・修正をお願いしている。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	「授業評価アンケート集計結果」	2部東洋思想文化学科については「授業評価アンケート」を実施していないが、学科成立の母体となったインド哲学科・中国哲学文学科の1部学生を対象とする「授業評価アンケート」における「シラバス(講義要項)に即した内容の授業が行われていたと思いますか。」の設問に対する回答は、肯定的回答が9割を超えており、ここから判断すると、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合していると判断できる。ただし、東洋思想文化学科の2部学生の状況を正しく把握できているか若干の疑問がある。	B	2部学生にも1部と同様のアンケートを実施する。	来年度
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	シラバス依頼時の文書「平成25年度東洋大学シラバス作成に当たってのお願い」「シラバス作成要項(作成例を含む)」 全科目のシラバス	各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、また、学科主任がシラバスをチェックし、問題があれば、担当教員に加筆・修正をお願いしている。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	『文学部履修要覧2013』156-165頁「第2部東洋思想文化学科課程表」	各授業科目の単位数は、大学設置基準に従って適切に設定されている。	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	「白山キャンパス学年歴2013」	大学設置基準に基づいて、各学期15回の授業が設定されている。	A		

	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学生を除く)。	「学部単位認定の申し合わせ」	単位の認定にあたっては、「学部単位認定の申し合わせ」に従い、教務委員会において原案を作成し、教授会にて審議のうえ決定しており、適切な手続きを経て60単位以下で行っている。	A		
4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。		学科会議で教育内容・方法の改善を議題にして話し合い、それを実際の授業に応用している。今後は議事録を残して、検討の跡が追跡できるようにする予定でいる。	B	議事録については、本年度から整備している。	本年度
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。		学科会議の際に話し合った内容やそれを授業で生かした実例を文書にまとめて公表するには至っていない。	B	議事録については、本年度から整備している。	本年度

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	「授業評価アンケート集計結果」	1部については授業評価アンケートを毎年実施して、学生の学習効果の測定を行っているが、学生数が少ないこともあって2部については実施しておらず、1部学生を対象とするアンケート結果に基づいて学科会議で改善策を話しあっている。ただし、東洋思想文化学科の2部学生の状況を正しく把握できているか若干の疑問がある。	B	2部学生にも1部と同様のアンケートを実施する。	来年度
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	「インド哲学科卒業生アンケート」 「中国哲学文学科卒業前アンケート」	設立母体のインド哲学科・中国哲学文学科ともに、卒業生アンケートを実施しているので、東洋思想文化学科でも、実施する予定である。ただし、卒業生が出るのは数年先のことであるから、その内容等については、今後、詰めてゆく必要がある。	B	卒業生アンケートを実施する。	3年後
2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態になっているか。	『文学部履修要覧2013』145-165頁「第2部 東洋思想文化学科」	『履修要覧』において卒業要件を明示するとともに、新入生ガイダンス等において、繰り返し周知している。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepe/policy.html 『文学部履修要覧2013』146-165頁	卒業要件は、ディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行っている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかののみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』147頁	第2部東洋思想文化学科では、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『文学部履修要覧2013』147頁	アドミッション・ポリシーは、文学部第2部東洋思想文化学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。	A		
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html#13 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/evening/faculty/eepc/policy.html 『入学試験要項2014』	第2部東洋思想文化学科のアドミッション・ポリシーは、『入学試験要項』、およびホームページにおいて公開している。	A		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学選抜を行っているか	学生募集方法、入学選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/landnavi/ 『入試NAVI2014』	各入試方式とも、募集人員・選考方法を、入試課のホームページ、ならびに『入試NAVI2014』で公開している。このパンフレットは、入試課のホームページからダウンロードできるようになっている。	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	東洋大学ホームページ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/landnavi/ 、『入試NAVI2014』	一般入試は、複数の方式で実施し、高等学校までで学ぶべき知識を広く有するものを選抜しているが、一部の入試では、漢文を重視した入試を行っている。また、推薦入試も複数の方式で実施し、学科の教育内容に強い関心を持つものを選抜するよう工夫している。	A		
	入学選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	「東洋大学入試委員会規程」 「文学部教授会規程」 「文学部入試委員会規程」	全学入試委員会、文学部教授会、文学部入試委員会が連携して、学生募集と選抜を行っている。	A		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	「2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(文学部)」 『入試NAVI2014』	第2部東洋思想文化学科の各入試方式において、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
		66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	「2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(文学部)」 『入試NAVI2014』	第2部東洋思想文化学科では、アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定している。	A		

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学学生数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	「大学基礎データ」表4	第2部東洋思想文化学科の入学定員に対する入学学生数比率の平均は、0.90～1.25の範囲に収まっている。	A		
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	「大学基礎データ」表4	第2部東洋思想文化学科の収容定員に対する在籍学生数比率は、0.90～1.25の範囲に収まっている。	A		
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	「大学基礎データ」表4	第2部東洋思想文化学科は設立したばかりなので、現時点では、編入学を認めていない。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	「大学基礎データ」表4	第2部東洋思想文化学科については、いまだ、定員超過、または未充足の状況が生じていないが、もし、今後そうした状況が生ずれば、原因調査と改善方策の立案を行う予定である。	A		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。		随時、学科会議でアドミッション・ポリシーの適切性を検証している。今後は議事録を残して、検討の跡が追跡できるようにする予定である。	B	議事録については、本年度から整備している。	本年度
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	「東洋大学入試委員会議事録」 「文学部入試委員会議事録」	全学の入試委員会、および文学部入試委員会において、毎年度、各入試の募集定員・選抜方法の検証・検討を行っており、学科内部でも、随時、学科会議でこの問題について話し合っている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	『文学部履修要覧2013』145-165頁「第2部 東洋思想文化学科」全科目のシラバス	哲学・思想関係の科目を多数設けており、哲学教育を学科教育の柱としている。	S		
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	『文学部履修要覧2013』145-165頁「第2部 東洋思想文化学科」全科目のシラバス	専門科目の中にも「中国語」「韓国語」等の語学科目を設けるとともに、演習等の授業でも英語・中国語等の文献を扱うようしている。また、「海外文化研修」「インド舞踊」「ヨーガ」等の科目を設け、学生が外国文化に直接触れる機会を設けている。	A		
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	新生生ガイダンス配布資料ほか	就職活動に有利になるように、中国政府公認の中国語の資格試験「漢語水平考試」(略称:HSK)の講座を設け、学生の受講を推進している。ただし、その効果については、まだ十分に把握できていない。	B	受講生の受験状況や結果をアンケート等によって把握する。	本年度
2) 学部・学科独自の評価項目①	(独自に設定してください)	100	学問分野への関心を惹起する施策をおこなっているか。	「実技講義科目」全科目シラバス	異文化や伝統文化を主たる教授対象とする学科であるが、それらの中には日常生活ではなかなか触れ得ず、実感を持ちにくいものもある。そこで、実践を通して身体で異文化や伝統文化を理解し、また、学科の教授内容に親しんでもらうことを目的とする一連の「実技講義科目」を設けている。	S		
3) 学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	101	(独自に設定してください)					
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102	(独自に設定してください)					
		103						
		104						
		105						

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 文学部 日本文学文化学科第2部

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1) 理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」(平成22年規程第38号)	日本文学文化学科においては、「人材の養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を左の規定に定めている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」(平成22年規程第38号)	日本文学文化学科の教育目的は、「日本・日本人を知り、伝統的な学問・日本文化を継承すると同時に、世界から日本を見るという視点を導入することで、新しい時代を切り拓く人材の育成を目標としている。」と述べているように、高い教養と専門的能力を培うと共に、新たな知見を創造する人材の育成を目的としており、その点で教育基本法第7条および学校教育法第83条と整合しており、高等教育機関として適切であると言える。	A		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・東洋大学の「建学の理念」 http://www.toyo.ac.jp/site/about/founder-index.html ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」(平成22年規程第38号)	日本文学文化学科は、「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神に則り、「国際社会にふさわしい日本文学文化の理解と創造」を教育目的に掲げ、日本文学文化についての高度な専門知識を有し、発信する能力を身につけることを達成すべき成果として明らかにしている。	A		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」(平成22年規程第38号) ・文学部日本文学文化学科の「教員紹介」 http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/professor05.html	日本文学文化学科は日本語、日本古典文学文化、日本近現代文学文化、比較文学文化の4分野の専任教員を擁しており、その教育・研究の実績から判断して、日本文学文化学科の教育目的は適切なものとなっている。	A		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」(平成22年規程第38号)	日本文学文化学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「高度専門職業人養成」「総合的教養教育」の機能を踏まえて、学科の個性・特色を打ち出して設定されている。	A		
2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	①東洋大学HP「情報公開/教育情報公開/文学部」 http://www.toyo.ac.jp/site/data/lit.html ②『履修要覧 文学部 2013年度』P.9	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」に記載されている「人材の養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」は、左記の大学HP①および『履修要覧』②にて公表している。	A		
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・日本文学文化学科学科会議事録	学科の理念・目的の周知方法の有効性については、11月～12月の左記の学科教員打ち合わせ会議において、構成員の意見を聴取して、改善している。	A		
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	①東洋大学HP「情報公開/教育情報公開/文学部」 http://www.toyo.ac.jp/site/data/lit.html ②大学HP「学部・大学院/学部・学科/文学部」http://www.toyo.ac.jp/site/lit/ ③大学入試情報サイト「東洋の学び」 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/index.html	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」に記載されている「人材の養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」は、左記の大学HP①にて公表している。 ・また、上記の規定の内容を踏まえた、学科の「教育理念」を左記の資料②において公表している。③入試情報サイト「東洋の学び」での学科紹介では「人材養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を直接は記載していないが、「学問の魅力」「学び方」などとしてわかりやすく掲載している。	A		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか	9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・日本文学文化学科学科会議事録 ・『演習・卒論の手引き』	毎年12月に次年度の『演習・卒論の手引き』を編集する際に、学科の教育目的の適切性(表現の文言も含む)について、学科の構成員が検証し、確認している。	A			

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	①東洋大学教員資格審査基準(平成12年基準第19号) ②東洋大学教員資格審査委員会規程(昭和32年4月) ③文学部教員資格審査委員会内規(平成14年4月) ④文学部教員資格申し合わせ事項(平成14年4月)	・「東洋大学教員資格審査基準」および「東洋大学教員資格審査委員会規程」に照らし、教員資格基準を明確にするとともに、「文学部教員資格審査委員会内規」「文学部教員資格申し合わせ事項」を定めて、教育歴や研究業績の指標を明確にしている。	A		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・文学部教授会議事録 ・文学部主任会議議案	・毎月1回開催される定例の主任会(2013年4月より「学科長」)が、学部や各学科における教育研究に関する諸問題について、連携・調整を図っている。 ・ただし、「学科主任」(学科長)の職務に関する規程は「学科の校務をつかさどる」とあるのみで不明確である。主任会議(学科長会議)の議事録は正式な会議録としては作成されていない。	C	・文学部内の規定として、主任会議(学科長会議)の役割を明文化する。	2014年度
	教員構成の明確化	16 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・『履修要覧 文学部 2013年度』P.170 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」(平成22年規程第38号) ・東洋大学教員資格審査基準 ・文学部教員資格審査委員会内規 ・日本文学文化学科学科会議事録 ・「大学基礎データ」の「II 教員組織 1 全学の教員組織」の表2	・教員組織の編制方針は学科としては明文化して定めていないが、『履修要覧』には学科の四つの専攻分野を明示して、それに沿った教員編制を行っている。 ・今後は編制方針を明文化することを検討する。 ・また、大学及び学部の教員資格審査基準に基づき、新規採用人事や学生の演習希望調査などの際に、年齢構成や教員一人当たりの学生数などについての現状を確認している。	B		
		17 学部、各学科の個性、特色を發揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・日本文学文化学科学科会議事録 ・「日本文学文化学科 OD非常勤講師採用内規」	日本文学文化学科学科では契約制外国人教員は採用していない。任期制教員である助教や非常勤講師の採用については、文書化してはいるが、採用の起案に際して学科会議で学科の教育目的等に合致しているか、審議し、確認している。なお、ODの非常勤講師採用については、5年間という任期制を学科において採用し、採用方針や更新の基準を文書にて明確にしたい。	B		
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・「大学基礎データ」の「II 教員組織 1 全学の教員組織」の表2	・日本文学文化学科学科は、定数では別表1教員が11名・別表2教員が11名の計22名(助教除く)で、現員数は助教を除いて22名で充足している。 ・教員補充枠を定めた「教員定数」の一覧表は公表されていない。	A	「教員定数」を教職員がアクセスしやすい方法で公表すべき。	未定
		※19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」の「II 教員組織 1 全学の教員組織」の表2	助教を含めた専任教員23名中、教授は14名で半数以上である。	A		
	20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	大学基礎データ(表A)	・～30歳:0.0%(前年比±0.0%) ・31～40歳:11.5%(+1.0%) ・41～50歳:24.0%(+4.2%) ・51～60歳:36.8%(+1.4%) ・61歳～:29.2%(+3.4%) 前年度比で、51歳以上が-4.8%、50歳以下が+5.2%と改善されている。	A			
	21 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	・『履修要覧 文学部 2013年度』P.170 ・日本文学文化学科学科会議事録	・学科教育の専攻分野に沿って、日本語(3名)、古典文学文化(8名)、近現代文学文化(5名)、比較文学文化(4名)、書道・図書館学(3名、うち1名助教)の専門教員によって編成されている。 ・教員組織の編成方針は明文化してはいるが、新規採用人事に際しては、学科の教員会議において採用候補者の研究実績や教育経歴などを学科の教育目的等に照らして合致するものであるか確認している。	B			
	22 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・文学部教員資格審査委員会規定内規 ・文学部教員資格申し合わせ事項	・新規採用に際しては、文学部資格審査委員会において、教育研究業績と担当科目との「科目適合」について審議している。	A		

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	①東洋大学教員資格審査基準(平成12年基準第19号) ②東洋大学教員資格審査委員会規程(昭和32年4月) ③文学部教員資格審査委員会内規(平成14年4月) ④文学部教員資格申し合わせ事項(平成14年4月) ⑤文学部教授会議事録	・全学の①②の基準・規定に照らして、③学部の教員資格審査委員会規定およびその運用を規定する④を定め、手続きを明確化している。また、教員の採用・昇格は文学部資格審査委員会を経て、文学部教授会において専任教員による審議・投票によって決定される。	A		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	・文学部教授会議事録	・採用、昇格は教授会に於いて規定に則った方法で適切に行われている。	A		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・『2013年度 東洋大学文学部自己点検・評価報告書(2012年データブック)』 ・東洋大学研究者情報データベース ・文学部自己点検・評価委員会議事録 ・文学部FD講演会チラシ	・左記の資料およびデータベースに各教員の研究業績、教育実績、社会活動貢献等の情報を掲載している。 ・自己点検・評価活動の一環として学部でFD講演会(GPAの活用について、メンタルヘルスクアを必要とする学生について)や研修会(授業事例報告)を開催し、教員資質向上に取り組んでいる。	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	東洋大学研究者情報データベース	・人事考査に係るような、教員の教育研究評価は実施していない。 ・教員相互の教育研究活動の評価として、「東洋大学研究者情報データベース」に各自の教育研究活動を公表している。 ・更新率は100%(2013年7月10日現在)。	A	・学部として教員の「評価」は実施する予定はない。 ・教員の研究活動を公表している「東洋大学研究者情報データベース」の更新を促進する。	

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	①東洋大学HP「情報公開/教育情報公開/文学部/第2部日本文学文化学科」 http://www.toyo.ac.jp/site/data/lit.htm ②大学HP「学部・大学院/学部・学科/文学部/日本文学文化学科」 http://www.toyo.ac.jp/site/lit/	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」に記載されている「人材の養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」は、左記の大学HP①にて公表している。 ・また、②では上記の規定を踏まえて「教育目標」を「日本の文学文化を総合的多角的に考察するとともに、国際社会にふさわしい日本文学文化の継承やその創造に寄与する人材の育成に努め、「世界から日本を見る」という新しい視点から創造性に満ちた教育と研究を実践します」と明示している。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.169 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	設定している。	A		
		29 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・「教育目標」(学部・大学院/学部・学科/文学部/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/lit ・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.169 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	日本文学文化をグローバルな視点で考察し、発信することを教育目標としており、それは「広い視座から、日本のことばや文学文化を理解し、それを糧に社会に適切に対応できるゆたかな見識と能力」を備えることを掲げたディプロマ・ポリシーと整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.169 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	ディプロマポリシーには、共通総合科目、文学部共通科目、専門科目それぞれにおける修得単位数と修得すべき学習成果が明示されている。	A		

2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.169 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	設定している。	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・「教育目標」(学部・大学院/学部・学科/文学部/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/lit ・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.169 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	カリキュラム・ポリシーでは、「日本を知って世界を見る」「世界から日本を見る」というコンセプトのもとで、「4分野の横断的な履修」「段階的学習」「充実した演習科目群」「卒業論文」「幅広い教養」の5つの柱を掲げている。それらは教育目標およびディプロマ・ポリシーと整合している。	S		
		科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum03.html	カリキュラム・ポリシーの「4分野の横断的な履修」「段階的学習」「幅広い教養」などに対応して、科目区分「必修科目」「選択必修Ⅰ・Ⅱ」「選択科目」を設け、「日本文学文化」「日本語」の領域を必修としている。「比較文学文化」の領域に関しても、「選択必修」の中で2科目4単位以上の履修を必修としている。	S		
3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にあり、かつ、その周知方法が有効であるか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.169 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	大学HP以外にも、毎年教職員及び学生に配布している『履修要覧』や『演習・卒論の手引き』などで公表・周知しており、目に触れる機会も多いので有効であると判断できる。	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html	大学HPの「入試情報サイト」の中の学部学科紹介の中で公表している。	A		
4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.63 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』 ・日本文学文学科学科会議事録	11月～12月の学科教員会議の際に、現行のポリシーの適切性を審議し、HPでの公表、『履修要覧』『演習・卒論の手引き』への掲載を検証している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 『文学部 授業時間割表 2013』 「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ 教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html 『履修要覧 文学部 2013年度』P.176～179 	必修科目、選択必修科目、選択科目すべて開講している。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ 教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html 『履修要覧 文学部 2013年度』P.176～179 	授業科目の難易度および内容によって、「概説」「概論」「基礎ゼミナール」などの基礎的科目は1～2年次の必修とし、演習科目はⅠ～Ⅲと順次性をもって配当学年を2～4年生に設定している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	『履修要覧 文学部 2013年度』P.171～175	『履修要覧』によって、一般教養的科目としての「共通総合科目」「文学部共通科目」と専門的科目としての「専門科目」の位置づけと役割を明確に説明している。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/li/djlc/policy.html 教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html 	「世界から日本を見る」「自ら考える力、発信する力を養う」というカリキュラム・ポリシーに従い、比較文学文化や種々の文化論の科目を1年生から配置し、「基礎ゼミナール」を通して基礎的な学力(読む、書く、考える、話す)を養成し、それを演習や卒論で磨き上げていくような教育課程となっている。	A		
2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ 教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html 『履修要覧 文学部 2013年度』P.176～179 	<ul style="list-style-type: none"> 「学士力」に対応すべく、「知識・理解力」の育成では「必修科目」の「日本文学文化概説」「日本語概説」および「選択必修科目」の「文学史」「フランス語圏(英語、ドイツ語、中国)文学文化と日本」などが対応している。 「汎用的な能力」および「態度・志向性」の育成は、1年次の「基礎ゼミナール」や2年時以降の「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が実践的な授業内容で対応している。 「統合的な学習経験と創造的思考力」の育成は、「必修科目」の「卒業論文」などが対応している。 	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ 教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html 『履修要覧 文学部 2013年度』P.176～179 	1年次の必修科目の「基礎ゼミナール」が複数コース開講され、少人数授業を展開して、初年次教育、導入教育の役割を果たしている。この科目は、読む、書く、考える、話すを基本コンセプトとして、全コースで統一的なシラバスを作成して、授業を展開している。	A		

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育目標」(学部・大学院/学部・学科/文学部/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/lit ・「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ ・教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html ・『履修要覧 文学部 2013年度』P.176～179 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識の修得を中心とした分野では「日本文学文化概説」「日本語概説」や各時代の「文学史」、様々な「文化論」などの講義科目を設定している。 ・「汎用的技能力」を育成するために、双方向型の授業が望ましい領域では「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を設定している。 ・技術修得が必要な領域では、「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「教職実践演習」などの実技的科目を設定している。 	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	<ul style="list-style-type: none"> ・『履修要覧 文学部 2013年度』P.12 	<ul style="list-style-type: none"> ・履修登録の上限単位数を、1年間で48単位と定めている。 	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ ・日本文学文化学科「演習希望調査」 ・ToyoNet-ACE https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/login 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次「基礎ゼミナール」、2年時以降「演習」はすべて必修であり、受講者数を上限30名程度となるように「希望調査」を事前に実施して、少人数教育を展開している。 ・講義科目に関しては、受講者の上限人数は設定していない。 ・ICTを活用した授業補助として、学内情報システムポータルであるToyoNet-Aceのmanabaによる学生の主体的な意見発信を促している。 	A		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法はカリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の習得につながるものとなっているが、「シラバス」において全科目の「教育方法」がカリキュラム・ポリシーに対応しているか、検証していない。 	B		

2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度 東洋大学シラバス作成に当たってのお願い(教務部長文書) ・「シラバス作成要領」 ・「2013年度 学部(白山)シラバス・教員プロフィール登録マニュアル」 ・「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼して依頼している。 ・記述に不足があるかどうかのチェックは、学部教務課が実施しているが、学科内では実施していない。 ・教員個々でのWEB入力方式であるため、記載内容の事前チェックを実施するのは困難。教授会等で教員にシラバス作成マニュアルを厳格に順守することを徹底する。 	B		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋大学授業評価アンケート ・『東洋大学文学部自己点検・評価報告書(2012年データブック)』 	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年度より実施している、「東洋大学授業評価アンケート」は、授業の「わかりやすさ」「授業運営」「学習成果」「難易度や進度」について、受講生から評価してもらい、その結果を集計し、担当教員にフィードバックすることで、授業をより良くしていくために実施しているもので、シラバスと授業内容・授業方法の一致・不一致を検証するものではない。 ・ただし、学生の授業評価によって授業内容や授業方法とシラバスとの整合性は評価結果として検証しようとする。 	B		
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「シラバス作成依頼時の文書」 ・シラバスhttps://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼している。 ・記述に不足があるかどうかのチェックは、学部教務課で実施しているが、学科内では実施していない。 	B		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html ・『履修要覧 文学部 2013年度』P.176～179 	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業科目の単位数は、大学設置基準に従って、原則として、以下の通りに定めて、適切に設定している。 講義・演習科目:15回(授業15時間、予習復習30時間)で1単位 外国語科目:15回(授業30時間、予習復習15時間)で1単位 実験・実技・実習科目:15回(授業45時間、予習復習0時間)で1単位 	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「平成25年度 白山キャンパス学年暦カレンダー」 	<ul style="list-style-type: none"> ・春学期、秋学期とも、授業15回と補講1回、定期試験1回の授業日数を実施している。 	A		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学部単位認定の申し合わせ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位認定に当たっては、左記資料に従い、学科の教務担当教員および学科主任が原案を作成し、教授会にて審議して決定している。 ・学科の単位認定基準は明示されていない。 	B		
4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「東洋大学FDニュース」第11号 ・『2013年度 東洋大学文学部自己点検・評価報告書(2012年データブック)』 ・日本文学文化学科科会議事録 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科においてはFD担当教員を複数人、任命しており、大学のFD推進センターや文学部が主催する講演会や研究会への参加を常に呼びかけている。また、FD活動として取り上げるべきテーマについては、自己点検・評価委員と相談して、学部のFD活動として取り上げてもらおうとしている。 ・2012年度は日本文学文化学科の教員がFD報告を行った(2013年2月12日、河地修教授「manaba授業活用事例報告—我々は実際どう使っているのか—」)。 ・学科の初年次教育科目「基礎ゼミナール」の教育内容については、年度末に担当教員による検証会が開かれた。 	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的に行われており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ①「東洋大学FDニュース」第11号 ②『2013年度 東洋大学文学部自己点検・評価報告書(2012年データブック)』 ③日本文学文化学科科会議事録 ④「2012基礎ゼミナールアンケート集計(全体)(記述式)」 ⑤「2012年度基礎ゼミナールアンケート報告」 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価担当教員を中心に、「東洋大学授業評価アンケート」の結果についての学科報告をまとめており、その際に教育内容・方法についての改善点を議論している。学科報告は②の中で公表している。 ・「基礎ゼミナール」に関する学生アンケートの結果を集計し、その成果報告を学科会議において行った。 	S		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・東洋大学授業評価アンケート ・平成24年度基礎ゼミナール授業アンケート	・全学で共通のフォーマットによる「東洋大学授業評価アンケート」を実施している。その中で、学部独自の設問も5項目入れている。それらにより、各教員が自己の教育内容・方法について、学習効果を測定し、授業改善に役立てている。 ・学科独自の授業アンケートとして「基礎ゼミナール」の受講生に対して、アンケートを実施し、その結果を集計して、この科目の学習効果の測定に役立てている。	S		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	卒業生アンケート	・2013年3月に第2回の卒業生アンケートを大学全体で実施した。 ・文学部の回答者数は??。	A		
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	①日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ②『履修要覧 文学部 2013年P.13、P.171～179 ③日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	・ディプロマ・ポリシーに基づいて、学科の卒業要件を②『履修要覧』に明記してある。 ・さらに4年次の必修科目「卒業論文」についての学科での指導スケジュール(題目提出から口頭試問まで)を③で明示してある。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	①日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ②『履修要覧 文学部 2013年P.13、P.65～74、P.171～179 ③日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	・ディプロマ・ポリシーに則って、「日本文学文化概説」「日本語概説」「基礎ゼミナール」などの基礎的科目の必修、「演習」や「文化論」などの選択必修の単位をきちんと修得したうえで、「卒業論文」を必修としている。 ・②③にはディプロマ・ポリシーとともに卒業要件や卒業論文の単位履修について明示してある。	S		

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.169 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	・設定している。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 文学部 2013年』P.169 ・日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	・アドミッション・ポリシーでは、日本文学文化を深く理解し、また国際的な視野から捉える力を育成するため、文学、文化に対する強い関心と言葉に対する好奇心、社会事象に対する探究心などをもつ学生を求めている。そうした観点から、入学までに修得しておくべき学力として、「国語」「外国語」「社会」についてその内容・水準を具体的に明らかにしている。	S		
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html	・左記資料において公表している。	A		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・東洋大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・入試方式別に、募集人員、選考方法を明示している。	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・東洋大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・一般入試では、総合的な学力を求める「3教科A方式」、得意科目を重視する「C・D方式」、大学進学をあきらめない受験生のための「3月入試」を実施している。 ・推薦入試では、個性豊かな学生を求めて第1部・第2部とも「自己推薦」「指定校推薦」を、第2部では「学校推薦」を実施している。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・「東洋大学入学試験委員会規定」 ・「文学部教授会規定」	・全学の入試委員会および学部教授会が連携して、学生募集、選抜を実施している。入試の合否判定等は教授会で審議を行っており、透明性は確保されている。 ・学部内における「入試委員会」は整備されていない。 ・各学科の学生募集、入学選抜方法は学科長を中心として、各学科が決定し、学科長会議の議を経て入試課へ報告している。募集人員数の変更や入試方法の変更については、必ずしも教授会や入試委員会の審議を経ているとは言い難い。	B		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・「2013年度入試種別別募集人員・受入予定数・実績(文学部)」	・各入試方式で募集定員の2倍を超える学生は入学していない。	A		
		66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・東洋大学入試情報サイト http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・アドミッション・ポリシーに従って、設定している。	A		

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・「大学基礎データ 表4 学部・学科の学生定員及び在籍学生数」	・日本文学文化学科第1部:1.04	A		
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・「大学基礎データ 学部・学科、大学院研究科、専門職大学院等の学生定員及び在籍学生数」	・日本文学文化学科第1部:1.02	A		
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	・「大学基礎データ 学部・学科、大学院研究科、専門職大学院等の学生定員及び在籍学生数」	・学科ごとの編入学定員は定めていないので、比率は不明だが、2013年度は編入学生は1名であり、適切である。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・文学部教授会議事録	・教授会において、前年度の入学者数策定結果の報告は行っているが、学科としては定員超過・未充足は生じていないので、原因調査と改善方策の立案は行っていない。	A		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・日本文学文化学科科会議事録	11月～12月の学科教員会議の際に、現行のポリシーの適切性を審議し、HPでの公表、『履修要覧』『演習・卒論の手引』への掲載を検証している。	A		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・日本文学文化学科科会議事録 ・文学部教授会議事録	・学科において前年度入試の結果を検証し、次年度の学生募集及び入学者選抜についての適切性を審議し、文学部教授会において検証している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97 教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。		・とくに「哲学教育」というテーマで推進している教育・研究活動は現在はない。	C	・初年次教育科目である「基礎ゼミナール」の中で、東洋大学の「哲学教育」について講義する時間を取り入れる。	2014年度以降
	国際化	98 教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ ・教育課程表(学部・大学院/学部・学科/文学部日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/djlc/curriculum05.html	・日本の文学文化を世界に向けて発信できるような人材を養成するという学科教育の目的に照らして、比較文学文化分野の科目に「フランス語圏」「英語圏」「ドイツ語圏」「中国語」と「日本文学文化」という講義科目を設置している。 ・海外からの留学生の受け入れ、学生の海外留学の推進などは、学科としては特段の方策を立てていない。2014年度からの「中期目標・計画」の中で推進策を打ち出すことを検討中。	B		
	キャリア教育	99 教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・日本文学文化学科キャリア支援講演会チラシ	・2012年度は学科としては特段のキャリア教育に関する教育・研究活動は行っていない。 ・2013年度は、日本文学文化学会との共催で「キャリア支援講演会」(7月6日、講師は作家の鈴木善徳氏)を開催した。秋にも第2回を開催予定。	B		
2) 学部・学科独自の評価項目①	伝統文化教育	100 教育・研究活動の中で日本の伝統文化教育を推進しているか。	・能楽鑑賞教室チラシ ・新内節講演会チラシ ・東洋大学書展	・いずれも文学部の「伝統文化講座」の一環であるが、学科の教員が企画、運営に関わっている。とくに「能楽鑑賞教室」は日本文学文化学科の新入生初年次教育プログラムとしても位置付けられ、学科を挙げて、日本の伝統文化教育に力を入れている。	S		
3) 学部・学科独自の評価項目②	学習機会の拡大	101 3部間聴講制度を実施。	『履修要覧 文学部 2013年度』P.175	・同一のカリキュラムによる教育を展開している日本文学文化学科の第1部・第2部・通信教育部の「3部間」における相互聴講制度を設けている。卒業までに40単位を上限(同一部内で30単位まで)として科目の履修・単位修得を認めている。	S		
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102 (独自に設定してください)					
		103					
		104					
		105					

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 文学部 教育学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程 ・『文学部履修要覧2013年度入学生用』P.102	・各学部・学科において左記規程を設けている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	・『文学部履修要覧2013年度入学生用』P.102	・教育基本法第7条および学校教育法第83条の規定に則って作成されており、適切であると言える。	A		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・建学の精神 ・大学の理念 ・『文学部履修要覧2013年度入学生用』P.102	・建学の理念である「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」を基礎に自らの哲学をもつという教育理念に沿った学部・学科の方向性・達成すべき成果を設定している。	A		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・『文学部履修要覧2013年度入学生用』P.102	・学生に教員免許状および諸資格を取得させるため、人的配置は適切なものとなっている。ただし、物的・資金的資源については自覚的な検討を行っていない。	B		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	・『文学部履修要覧2013年度入学生用』P.102	・中央教育審議会答申のうち、特に「高度専門職業人育成」、「幅広い職業人育成」、「総合的教養教育」を視野においた、特色ある学科カリキュラムを構成している。	A		
2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知ろう状態にしているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.102 ・大学HP (http://www.toyo.ac.jp/lit/dedu/index_j.html)	・学部・学科の目的等を『履修要覧』に掲載し全教員・学生に配布するとともに、大学HPにも掲載して閲覧を容易にしている。	A		
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.102 ・大学HP (http://www.toyo.ac.jp/lit/dedu/index_j.html)	・毎年度、『履修要覧』作成の際に、学科全教員により、その記載内容の検討を行っている。	A		
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知ろう状態にしているか。	・『文学部パンフレット』P.20-23 ・『2013MANABI BOOK TOYO UNIVERSITY』P.16-17 ・大学HP (http://www.toyo.ac.jp/lit/dedu/index_j.html)	・左記に、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的等を明記し、受験生・保護者等の閲覧を容易にしている。	A		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.102 ・『文学部パンフレット』P.20-23	・学科内において、全教員による検討を行っている(『履修要覧』、『文学部パンフレット』作成時等)。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3)教員・教員組織

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・東洋大学教員資格審査基準 ・文学部教員資格審査内規	・「東洋大学教員資格審査基準」に照らし、さらに「文学部教員資格審査内規」を定めている。	A		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・文学部教授会議事録 ・文学部学科長会議事録	・毎月1回開催される定例の学科長会議が、学部や各学科における教育研究に関する諸問題について、連携・調整を図っている。 ・ただし、「学科長」に関する規定および職掌は学則にはなく、不明確である。学科長会議事録は公開されていない。	B		
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。		・毎月1回開催される定例の学科長会議及び学科長懇談会が、学部や各学科における教育研究に関する諸問題について、連携・調整を図っている。 ・ただし、「学科長」に関する規定および職掌は学則にはなく、不明確である。学科長会議事録は公開されていない。	A		
		17	学部、各学科の個性、特色を發揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。		・任期制教員について、明文化するなどの明確化は行っていないが、採用に当たっては学科会議でその目的との適合性を議論している。	A		
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・「大学基礎データ」表2	・学科の専任教員は定員を充足している。	A		
		※19	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」表2	・学科専任教育の半数超が教授となっている。	A		
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・大学基礎データ(表A)	・～30歳:0.0%(前年比±0.0%) ・31～40歳:10.5%(−1.6%) ・41～50歳:20.0%(−3.2%) ・51～60歳:36.8%(+4.4%) ・61歳～ :32.6%(+0.3%) 2012年度よりも51歳以上が若干増加しており、偏りが広がっている。	B		
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。		・教員免許状および諸資格取得という目的があるため、教員組織の編成はかなりの程度に制約されている。教員組織の編成はこの制約を受けつつ、学科の教育理念に沿って編成されている。	A		
	22	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備		専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・文学部教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定内規	・新規採用に際しては、文学部資格審査委員会において、教育研究業績と担当科目との「科目適合」について審議している。	A	

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋大学教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定 ・文学部教員資格審査委員会規定内規 ・文学部教授会議事録 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学の規定に照らして、学部教員資格審査委員会規定を定め、手続きを明確化している。教授会を通して専任教員に周知している。 	A		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・文学部教授会議事録 	<ul style="list-style-type: none"> ・採用、昇格は教授会に於いて規定に則った方法で適切に行われている。 	A		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋大学研究者情報データベース(RIS) ・文学部紀要 ・文学部自己点検・評価委員会議事録 ・文学部FD講演会チラシ 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の資料およびデータベースに各教員の研究業績、教育実績、社会活動貢献等の情報を掲載している。 ・自己点検・評価活動の一環として学部でFD講演会や研修会を開催し、教員資質向上に取り組んでいる。 	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	東洋大学研究者情報データベース(RIS)	<ul style="list-style-type: none"> ・人事考査に係るような、教員の教育研究評価は実施していない。 ・教員相互の教育研究活動の評価として、「東洋大学研究者情報データベース」に各自の教育研究活動を公表している。 	B		

(4)教育内容・方法・成果

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.102	・学科において、学生に修得させるべき教育目標を定めており、『履修要覧』で明示している。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 デイプロマ・ポリシーを設定しているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.7	・デイプロマ・ポリシーを設定している。	A		
		29 教育目標とデイプロマ・ポリシーは整合しているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.7、102	・両者は整合したものとなっている。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 デイプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.7	・修得すべき学習成果を明示している。	A		

2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.7	・カリキュラム・ポリシーを設定している。	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.7, 102	・3者は整合性をもつものとなっている。	A		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.7, 113-116	・カリキュラム・ポリシーに基づき、「教育の基礎」「心理学と発達臨床」「社会教育」「学校教育」「特別支援教育」という5つの重点領域を設定している また、それぞれについて必修科目・選択科目を設置し、単位数も適切に設定している。	A		
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.7 ・大学HP (http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j.html) #12)	・ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、『履修要覧』、大学HPに掲載し、知りうる状態にしてある。	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・大学HP (http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j.html) #12) 『文学部パンフレット』P.20, 22	・ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを大学HPに掲載している。また、より一般向けの表現にかえたものを、『文学部パンフレット』に載せている。	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.7	・『履修要覧』の改訂に当たって、学科全教員から意見を聴取する機会を設けている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	・学部授業時間割表	・必修科目・選択科目いずれについても主要科目はすべて開講されている 受講者数が少ない科目については隔年開講等の措置を取っている場合がある。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.115-116	・各領域の専門性とその発展性に鑑み、授業科目の学年配当を行っている 上記については、各学年当初のガイダンスにおいて学生に周知している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.105-116	・各学年(特に入学時)のガイダンスにおいて、履修計画についての説明とともに行っている。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.7, 115-116	・教育学学習における5つの領域の特徴と、その学年進行に合わせた教育課程を構成している。	A		
2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.104-116	・中央教育審議会答申に掲げられる「学士力」のうち、特に「人間の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「論理的思考力情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる」、「問題解決力」、「自己管理能力」、「チームワーク、リーダーシップ」、「市民としての社会的責任」、「生涯学習力」、「統合的な学習経験と創造的思考力」について、これらを育成するにふさわしい教育内容を提供している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.115-116	・1年次から少人数ゼミナールを開講し、春学期開講の「教育学入門ゼミナール」においては、主として初年次教育を、秋学期開講の「教職総合ゼミナール」においては主として専門教育への導入教育を実施している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善策	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.115-116	・1年次からのゼミナールの開講をはじめとして、各授業科目の特性に応じた開講形態をとっている。	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.105-116	・履修登録科目の単位数については、50単位未満の設定となっているが、教員免許状の取得に係る科目履修については十分な設定が行われていない点がある。	B		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.115-116	・ゼミナールを中心に、少人数による授業を実施し、学生の主体的学習を促している。	A		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.7, 115-116	・教育方法は各教科の目的や性格に規定されるため、すべての科目について評価することは困難であるが、おおむね学習成果につながるものとなっている。	B		
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバス作成依頼文書 ・シラバス(CD-ROM、大学HP)	・シラバス作成にあたっては、注意事項等を詳細に記述した文書を作成して全教員に配布している。 ・シラバスについては学科長が点検し、必要な場合には加筆・修正を求めることとなっている。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	『2012(平成24)年度東洋大学文学部年次報告書』P.80-81	・非常勤講師を含む全教員の授業について検証を行っていないが、学科別のアンケート結果をみる限り、おおむねシラバスに沿った授業が行われている。	B		
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	・シラバス作成依頼文書 ・シラバス(CD-ROM、大学HP)	・シラバス作成にあたっては、注意事項等を詳細に記述した文書を作成して全教員に配布している。 ・シラバスについては学科長が点検し、必要な場合には加筆・修正を求めることとなっている。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・大学設置基準 『文学部履修要覧2013入学生用』P.105-116	・大学設置基準に沿った設定となっている。	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・大学設置基準 『文学部履修要覧2012入学生用』P.101-112	・大学設置基準に沿った設定となっている。	A		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・大学設置基準	・おおむね大学設置基準に沿った手続きをとっているが、高等専門学校で修得した単位、TOEIC等については明確な方針を決定していない。	A		

4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・『2012(平成24)年度東洋大学文学部年次報告書』P.80-81	・毎年、「文学部授業評価アンケート」の分析結果を『東洋大学文学部年次報告書』に載せる際に、分析結果を全教員がチェックしているが、他に組織的な研修・研究の機会を設けていない。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的な実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	・『2012(平成24)年度東洋大学文学部年次報告書』P.80-81	・「文学部授業評価アンケート」の分析結果を各教員の判断で教育内容・方法等の改善に活かしているが、学科としての組織的な研修・研究とはなっていない。	B		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標の開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。		・学科として評価指標の開発は行っていない。各教員に委ねられている。	B		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	・東洋大学 卒業生アンケート	・東洋大学の統一フォーマットによる卒業時アンケートを実施し、学生に自己評価を求めている。	A		
2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.105-116	・『履修要覧』に要件を明記するとともに、学科による新入生ガイダンス、各学年のガイダンスにおいて説明・周知している。また、単位僅少者面接を行い、卒業までの履修計画についての相談も行っている。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・『文学部履修要覧2013入学生用』P.7, 105-116	・両者は整合している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.7	・アドミッション・ポリシーを設定している。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.7	・学科のアドミッション・ポリシーは学科の教育目的・目標を踏まえ、習得しておくべき知識内容・水準等を明らかにしている。	A		
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・『2013年度東洋大学アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)』P.3 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_admission.pdf) ・大学HP (http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j.html#12)	・学科のアドミッション・ポリシーは、左記に掲載され、一般的にアクセス可能である。	A		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・『2013年度一般入試入学試験要項』, P.10 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_ippan_youkou.pdf) ・『2013年度公募制推薦・AO入試入学試験要項』, P.4.13 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_koubou_youkou_all.pdf)	・一般入試については『2013年度一般入試入学試験要項』に、公募制推薦入試については『2013年度公募制推薦・AO入試入学試験要項』に、募集人員、選考方法を明示している。左記の資料はホームページからダウンロード可能である。	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・『2013年度一般入試入学試験要項』, P.10 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_ippan_youkou.pdf) ・『2013年度公募制推薦・AO入試入学試験要項』, P.4.13 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_koubou_youkou_all.pdf)	・入試方法の趣旨に適した学生募集等を行っている。特に学校推薦では「総合問題」を採用し、特色ある学生の確保に努めている。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・『2013年度一般入試入学試験要項』, P.10 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_ippan_youkou.pdf) ・『2013年度公募制推薦・AO入試入学試験要項』, P.4.13 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_koubou_youkou_all.pdf)	・学科会議等で検討しているが、そのための特別な体制づくりは行っていない。	B		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・「大学基礎データ 表3」	・募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
	66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・『2013年度東洋大学アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)』P.3 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_admission.pdf) ・『2013年度一般入試入学試験要項』, P.10 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_ippan_youkou.pdf) ・『2013年度公募制推薦・AO入試入学試験要項』, P.4.13 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_koubou_youkou_all.pdf)	・おおむねアドミッション・ポリシーに従って設定されている。	A			

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	「大学基礎データ 表4」	・入学定員に対する比率(過去5年間平均)は1.32であった。	A		
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	「大学基礎データ 表4」	・収容定員に対する比率は1.14であった。	A		
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	「大学基礎データ 表4」	・編入学定員は定めていない。 ・2012年度については編入学者は1名だった。	B		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。		・入試課との協議、情報の収集等を行っているが、具体的な改善策の立案には不十分な点がある。	B		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・『2013年度東洋大学アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)』P.3 (http://exam.52school.com/toyo_AO/pdf/13_toyo_admission.pdf)	・学科において、毎年度、入試方法検討の際などに、アドミッション・ポリシーの検討を行っている。	A		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。		・毎年度、入試結果について学科会議などで検討しているが、そのための常設の組織はしていない。	B		

評定の基準は、学科・専攻で定めている「目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.115	「教育学概論」「教育と倫理」「アメリカ思想史」等の専門科目において、哲学に関わる内容を扱っている。	B		
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	『文学部履修要覧2013入学生用』P.114	「比較社会論」「比較政策論」「アメリカ思想史」等の専門科目において国際的視野の育成を意識した教育を行っている。	B		
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	「教採カフェ」ニュースNo.1～No.5 ・東京都教師養成塾等、学内推薦募集要項	学科内に「教職サポートチーム」を組織し、教員採用試験受験のための支援、及び各自治体教員採用試験の大学推薦にかかわる学内選考、東京都教師養成塾や埼玉教員養成セミナーを希望する学生の学内選考、セミナー参加学生の指導などを実施している。	A		
2) 学部・学科独自の評価項目①	(独自に設定してください)	100	(独自に設定してください)					
3) 学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	101	(独自に設定してください)					
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102	(独自に設定してください)					
		103						
		104						
		105						

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 通信教育部 日本文学文化学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1) 理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	「通信教育課程の教育研究上の目的の公表等に関する規程」(平成25年規程第79号)	・日本文学文化学科においては、「人材の養成に関する目的」を左の規程に定めている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	「通信教育課程の教育研究上の目的の公表等に関する規程」(平成25年規程第79号)	日本文学文化学科の教育目的は、「日本・日本人を知り、伝統的な学問・日本文化を継承すると同時に、世界から日本を見るという視点を導入することで、新しい時代を切り拓く人材の育成を目標としている。」と述べているように、高い教養と専門的能力を培うと共に、新たな知見を創造する人材の育成を目的としており、その点で教育基本法第7条および学校教育法第83条と整合しており、高等教育機関として適切であると言える。	A		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・東洋大学の「建学の理念」 http://www.toyo.ac.jp/site/about/founder-index.html ・「通信教育課程の教育研究上の目的の公表等に関する規程」(平成25年規程第79号)	・日本文学文化学科は、「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神に則り、「国際社会にふさわしい日本文学文化の理解と創造」を教育目的に掲げ、日本文学文化についての高度な専門知識を有し、発信する能力を育成することを成果として明らかにしている。	A		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・「通信教育課程の教育研究上の目的の公表等に関する規程」(平成25年規程第79号) ・文学部日本文学文化学科の「教員紹介」 http://www.toyo.ac.jp/site/djic/professor05.html	・日本文学文化学科の目的は、専任教員の教育・研究実績や現在の教育・研究状況から判断して適切なものとなっている。学科の1部・2部・通信教育部は、同じカリキュラムのもとで、同じ目的を達成すべく教育が実施されている。	A		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	「通信教育課程の教育研究上の目的の公表等に関する規程」(平成25年規程第79号)	・日本文学文化学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「高度専門職業人養成」「総合的教養教育」の機能を踏まえて、学科の個性・特色を打ち出して設定されている。	A		

2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6	教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・東洋大学HP「情報公開/教育情報公開/文学部/日本文学文化学科」 http://www.toyo.ac.jp/data/djlc_cou rse_j.htm ・通信教育部サイト(学部・大学院/学部・学科/通信教育部) http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/	・「通信教育課程の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に記載されている「人材の養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」は、左記の大学HPにて公表している。	A		
		7	学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・日本文学文化学科科会議事録	学科の理念・目的の周知方法の有効性については、11月～12月の左記の学科教員打ち合わせ会議において、構成員の意見を聴取して、改善している。	A		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的な検証を行っているか	社会への公表方法	8	受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	①東洋大学HP「情報公開/教育情報公開/文学部」 http://www.toyo.ac.jp/site/data/lit.htm ②大学HP「学部・大学院/学部・学科/日本文学文化学科通信教育課程」 http://www.toyo.ac.jp/site/cjlc/index.html ③通信教育部サイト(学部・大学院/学部・学科/通信教育部) http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/ ④大学入試情報サイト「東洋の学び」 http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/index.html	・「通信教育課程の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に記載されている「人材の養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」は、左記の大学HP①にて公表している。 ・また、上記の規程の内容を踏まえた、通信教育課程の「教育目標」および「特色」を左記の資料②③において公表している。 ・④入試情報サイト「東洋の学び」での学科紹介では「人材養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を直接は記載していないが、「学問の魅力」「学び方」などとしてわかりやすく掲載している。	A		
		9	学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・日本文学文化学科科会議事録 ・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html	12月に次年度の『演習・卒論の手引き』を編集する際に、学科の「目的」の文言内容について、学科の構成員が検証し、確認している。	A		

(3)教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	①東洋大学教員資格審査基準(平成12年基準第19号) ②東洋大学教員資格審査委員会規程(昭和32年4月) ③文学部教員資格審査委員会内規(平成14年4月) ④文学部教員資格申し合わせ事項(平成14年4月)	・「東洋大学教員資格審査基準」および「東洋大学教員資格審査委員会規程」に照らし、教員資格基準を明確にするとともに、「文学部教員資格審査委員会内規」「文学部教員資格申し合わせ事項」を定めて、教育歴や研究業績の指標を明確にしている。	A		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・文学部教授会議事録 ・文学部学科長会議議案	・毎月1回開催される定例の主任会が、学部や各学科における教育研究に関する諸問題について、連携・調整を図っている。 ・ただし、「学科長」に関する規程および職掌は学則にはなく、不明確である。学科長会議の議事録は正式な会議録としては作成されていない。	B	・大学として「学則」に「学科長」の規程を明確化する。 ・文学部内の規程として、学科長会議の規程を明文化する。	2013年度中
	教員構成の明確化	16 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・『履修要覧 文学部 2013年度』P.64 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」(平成22年規程第38号) ・東洋大学教員資格審査基準 ・文学部教員資格審査委員会内規 ・日本文学文化学科科会議事録 ・「大学基礎データ」の「Ⅱ教員組織 1 全学の教員組織」の表2	・教員組織の編成方針は学科としては明文化して定めていないが、『履修要覧』には学科の四つの専攻分野を明示して、それに沿った教員編成を行っている。 ・また、大学及び学部の教員資格審査基準に基づき、新規採用人事や学生の演習希望調査などの際に、年齢構成や教員一人当たりの学生数などについての現状を確認している。	A		
		17 学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・日本文学文化学科科会議事録 ・「日本文学文化学科 OD非常勤講師採用内規」	日本文学文化学科では契約制外国人教員は採用していないが、任期制教員である助教や非常勤講師の採用については、学科内で方針を明確にしている。	B		
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※ 18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・「大学基礎データ」の「Ⅱ教員組織 1 全学の教員組織」の表2	・日本文学文化学科は、定数では別表1教員が11名・別表2教員が11名の計22名(助教除く)で、現員数は助教を除いて22名で充足している。 ・教員補充枠を定めた「教員定数」の一覧表は公表されていない。	A		
		※ 19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」の「Ⅱ教員組織 1 全学の教員組織」の表2	助教を含めた専任教員23名中、教授は14名で半数以上である。	A		
	20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・大学基礎データ(表A)	・ ～30歳:0.0%(前年比±0.0%) ・31～40歳:11.5%(+1.0%) ・41～50歳:24.0%(+4.2%) ・51～60歳:36.8%(+1.4%) ・61歳～ :29.2%(+3.4%) 前年度比で、51歳以上が+4.8%、50歳以下が+5.2%と改善されている。	A			
	21 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	・『履修要覧 文学部 2013年度』P.64.P.170 ・日本文学文化学科科会議事録	・学科教育の専攻分野に沿って、日本語(3名)、古典文学文化(8名)、近現代文学文化(5名)、比較文学文化(4名)、書道・図書館学(3名、うち1名助教)の専門教員によって編成されている。 ・教員組織の編成方針は明文化してはいるが、新規採用人事に際しては、学科の教員会議において採用候補者の研究実績や教育経歴などを学科の教育目的等に照らして合致するものであるか確認している。	B			
	22 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・文学部教員資格審査委員会規程内規 ・文学部教員資格申し合わせ事項	・新規採用に際しては、文学部資格審査委員会において、教育研究業績と担当科目との「科目適合」について審議している。	A		

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	①東洋大学教員資格審査基準(平成12年基準第19号) ②東洋大学教員資格審査委員会規程(昭和32年4月) ③文学部教員資格審査委員会内規(平成14年4月) ④文学部教員資格申し合わせ事項(平成14年4月) ⑤文学部教授会議事録	・全学の①②の基準・規程に照らして、③学部の教員資格審査委員会規程およびその運用を規程する④を定め、手続きを明確化している。また、教員の採用・昇格は文学部資格審査委員会を経て、文学部教授会において専任教員による審議・投票によって決定される。	S		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	・文学部教授会議事録	・採用、昇格は教授会に於いて規程に則った方法で適切に行われている。	S		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・『2013年度 東洋大学文学部自己点検・評価報告書(2012年データブック)』 ・東洋大学研究者情報データベース ・文学部自己点検・評価委員会議事録 ・文学部FD講演会チラシ	・左記の資料およびデータベースに各教員の研究業績、教育実績、社会活動貢献等の情報を掲載している。 ・自己点検・評価活動の一環として学部でFD講演会(GPAの活用について、メンタルヘルスクアを必要とする学生について)や研修会(授業事例報告)を開催し、教員資質向上に取り組んでいる。	B		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	東洋大学研究者情報データベース	・人事考査に係るような、教員の教育研究評価は実施していない。 ・教員相互の教育研究活動の評価として、「東洋大学研究者情報データベース」に各自の教育研究活動を公表している。 ・更新率は100%(2013年7月10日現在)。	A		

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	・「通信教育課程の教育研究上の目的の公表等に関する規程」(平成25年規程第79号) ・大学HP「学部・大学院/学部・学科/日本文学文化学科通信教育課程」 http://www.toyo.ac.jp/site/cjlc/index.html	・「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を左の規程において定めている。また、HPでも「教育目標」は明示してある。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html ・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html	・設定している。通信教育部『演習・卒論の手引き』に掲載している。また、文学部HPおよび通信教育部サイトに通信教育部のディプロマ・ポリシーを掲載している。	A		
		29 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html ・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html	・日本文学文化をグローバルな視点で考察し、発信することを教育目標としており、それは「広い視座から、日本のことばや文学文化を理解し、それを糧に社会に適切に対応できるゆたかな見識と能力」を備えることを掲げたディプロマ・ポリシーと整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html ・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html	・『演習・卒論の手引き』に明示している。また、文学部HPにも通信教育部のディプロマ・ポリシーが掲載されている。	A		

2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31 カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guid ebook.html ・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定して『演習・卒論の手引き』に明示している。また、文学部HPにも通信教育部のカリキュラム・ポリシーが掲載されている。 	A		
		32 カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育目標」(学部・大学院/学部・学科/文学部/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/site/lit ・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 通信教育部 2013年度』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guid ebook.html ・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guid ebook.html 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーは教育目標やディプロマ・ポリシーと整合している。 	A		
	33 カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 通信教育部 2013年度』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guid ebook.html ・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guid ebook.html 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーの「4分野の横断的な履修」「段階的学習」「幅広い教養」などに対応して、科目区分「必修科目」「選択必修Ⅰ・Ⅱ」「選択科目」を設け、「日本文学文化」「日本語」の領域を必修としている。「比較文学文化」の領域に関しても、「選択必修」の中で2科目4単位以上の履修を必修としている。 	A			

3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 通信教育部 2013年度』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html ・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』で教職員・学生には周知している。『履修要覧』や通信教育部サイトに3つのポリシーを掲載している。 	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ①日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ②通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信教育課程の3つのポリシーは左記の①で公表されている。 ・資料②にも3つのポリシーが掲載されており、通信教育部サイトからダウンロードできる。 	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文学文化学科3つのポリシー(入試情報サイト/東洋の学び/文学部/文学部の教育方針/日本文学文化学科) http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lit/djlc/policy.html ・『履修要覧 通信教育部 2013年度』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html ・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html ・日本文学文化学科科会議事録 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月～12月の学科教員会議の際に、現行のポリシーの適切性を審議し、HPでの公表、『履修要覧』『演習・卒論の手引』への掲載を検証している。通信教育部に関しても、通学課程と同様に行っている。 	A		

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	・『履修要覧 通信教育部 2013年度』P.5～12 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html	・必修科目、選択必修科目、選択科目すべて開講している。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・『履修要覧 通信教育部 2013年度』P.5～12 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html	・授業科目の難易度および内容によって、初年次教育科目として位置づけている「導入ゼミナール」は1年次の必修。また、専門基礎科目としては「日本語概説」「日本文学文化概説」「比較文学文化概説」は1～2年次の選択必修、その他の「概論」も2年次より開講。演習科目はⅠ～Ⅲと順次性をもって配当学年を2～4年生に設定している。その上で、「卒業論文」は所定の単位数を修得した者のみが4年次に履修登録できる必修科目として設定している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	・『履修要覧 通信教育部 2013年度』P.5～12 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html	・『履修要覧』によって、一般教養的科目としての「共通総合科目」「文学部共通科目」と専門的科目としての「専門科目」の位置づけと役割を明確に説明している。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・日本文学文化学科カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html ・通信教育部日本文学文化学科の教育課程表 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/tsushinkyuiku-curriculum.html	・「世界から日本を見る」「自ら考える力、発信する力を養う」というカリキュラム・ポリシーに従い、比較文学文化や種々の文化論の科目を1年生から配置し、「基礎ゼミナール」を通して基礎的な学力(読む、書く、考える、話す)を養成し、それを演習や卒論で磨き上げていくような教育課程となっている。	A		
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審審申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・通信教育部日本文学文化学科の教育課程表 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/tsushinkyuiku-curriculum.html ・『履修要覧 通信教育部 2013年度』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html ・シラバス https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/	・「学士力」に対応すべく、「知識・理解力」の育成では「必修科目」の「日本文学文化概説」「日本語概説」および「選択必修科目」の「文学史」「フランス語圏(英語、ドイツ語、中国)文学文化と日本」などが対応している。 ・「汎用的な能力」および「態度・志向性」の育成は、1年次の「基礎ゼミナール」や2年時以降の「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が実践的な授業内容で対応している。 ・「統合的な学習経験と創造的思考力」の育成は、「必修科目」の「卒業論文」などが対応している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・通信教育部日本文学文化学科の教育課程表 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/tsushinkyuiku-curriculum.html ・シラバス(「基礎ゼミナール」「導入ゼミナール」) https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/	・1年次の必修科目の「基礎ゼミナール」が複数コース開講され、少人数授業を展開して、初年次教育、導入教育の役割を果たしている。この科目は、読む、書く、考える、話すを基本コンセプトとして、全コースで統一したシラバスを作成して、授業を展開している。 ・通信教育部でも、「導入ゼミナール」をスクーリングとして開講しており、導入教育の役割を果たしている。	A		

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	・文学部日本文学文化学科(通信教育課程)のHPトップの教育目標 http://www.toyo.ac.jp/site/cjlc/ ・通信教育部日本文学文化学科の教育課程表 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/tsushinkyouiku-curriculum.html	・基本的な知識の修得を中心とした分野では「日本文学文化概説」「日本語概説」や各時代の「文学史」、様々な「文化論」などの講義科目を設定している。 ・「汎用的技能力」を育成するために、双方向型の授業が望ましい領域では「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を設定している。 ・技術修得が必要な領域では、「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「図書館司書資格科目」「図書館司書教諭科目」「教職実践演習」などの実技的科目を設定している。	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	・『履修要覧 通信教育部 2013年度』P.25 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html	・履修登録の上限単位数を、1年間で40単位と定めている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	・通信教育部2013年度シラバス http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/syllabus.html ・『履修要覧 通信教育部 2013年度』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html	・通信生は、通学課程1部・2部の授業を受講できる形式(3部間聴講制度)を導入し、通年スクーリングとして認めている。通年スクーリングの上限単位数は4年間で40単位としている。 ・レポート添削に関しては、教育内容は教員が指導するが、レポートの形式や文章表現等については、専門分野別にTAを配置し、随時指導を行っている。 ・通信生の学習上の質問等に関しては、TAが随時受付およびメール等で対応している。 ・講義科目に関しては、受講者の上限人数は設定していない(地方スクーリングを除く)。	A		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	・日本文学文化学科カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html ・通信教育部2013年度シラバス http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/syllabus.html	教育方法はカリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の習得につながるものとなっているが、「シラバス」において全科目の「教育方法」がカリキュラム・ポリシーに対応しているかは検証できてはいない。	B		
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・「シラバス作成依頼時の文書」 ・通信教育部2013年度シラバス http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/syllabus.html	・通信教育部のフォーマットに従い、シラバス作成時に講義の目的・内容、到達目標、講義スケジュール等の詳細なマニュアルを添付して依頼している。 ・スクーリングに関しては、講義スケジュール、講義内容および受講時の注意事項を記載している。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	・通信教育部授業アンケート ・通信教育部メディア授業アンケート	・通信教育部では、1年間経過した時点で、1年次の内容に関する動向調査アンケートを行い、調査内容を集計し『東洋通信』に発表している。 ・メディア授業に関しても、受講した学生に対してアンケート調査を実施し、調査内容を集計し『東洋通信』に発表している。	A		
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	・「シラバス作成依頼時の文書」 ・通信教育部2013年度シラバス http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/syllabus.html	・シラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼している。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・通信教育部日本文学文化学科の教育課程表 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/tsushinkyouiku-curriculum.html ・『履修要覧 通信教育部 2013年度』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html	・各授業科目の単位数は、大学設置基準に従って、原則として、以下の通りに定めて、適切に設定している。 講義科目:2単位 演習科目:2単位 実習科目:1単位 卒業論文:4単位	S		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	・通信教育部2013年度シラバス http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/syllabus.html ・2013年度通信教育部課程行事予定表 http://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/7917.pdf	・スクーリングでは、通学課程の1単位15回の時間数に合わせて授業時間を決めて実施し、終了後に単位認定試験を実施している。	S		

	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・「学部単位認定の申し合わせ」	・単位認定に当たっては、左記資料に従い、学科の教務担当教員および学科主任が原案を作成し、教授会にて審議して決定している。 ・学科の単位認定基準は明示されていない。	B		
4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	・「東洋大学FDニュース」第11号 ・『2013年度 東洋大学文学部自己点検・評価報告書(2012年データブック)』 ・日本文学文化学科科会議事録	・学科においてはFD担当教員を複数人、任命しており、大学のFD推進センターや文学部が主催する講演会や研究会への参加を常に呼びかけている。また、FD活動として取り上げるべきテーマについては、自己点検・評価委員と相談して、学部のFD活動として取り上げてもらうようにしている。 ・2012年度は日本文学文化学科の教員がFD報告を行った(2013年2月12日、河地修教授「manaba授業活用事例報告—我々は実際どう使っているのか—」)。 ・学科の初年次教育科目「基礎ゼミナール」の教育内容については、年度末に担当教員による検証会が開かれた。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的な実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	①「東洋大学FDニュース」第11号 ②『2013年度 東洋大学文学部自己点検・評価報告書(2012年データブック)』 ③日本文学文化学科科会議事録 ④「2012基礎ゼミナールアンケート集計(全体)(記述式)」 ⑤「2012年度基礎ゼミナールアンケート報告」	・自己点検評価担当教員を中心に、「東洋大学授業評価アンケート」の結果についての学科報告をまとめており、その際に教育内容・方法についての改善点を議論している。学科報告は②の中で公表している。 ・「基礎ゼミナール」に関する学生アンケートの結果を集計し、その成果報告を学科会議において行った。	S		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・『履修要覧 通信教育部 2013年度』	・通信教育部における学習成果は、レポート課題および単位認定試験(筆記・論文)により確認している。 ・スクーリング時には、スクーリング試験によって学習の理解度を確認している。 ・学生の学習効果の向上をはかるため、図書館を利用して積極的な自主学習を推奨している。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	・入学1年後に、1年間についてアンケート	・通信教育部の卒業生に対するアンケートについては、既に就労している社会人が大半であるため特に実施していない。 ・通信教育課程の在学生においては、入学後1年を経過しているので、アンケート調査を実施し、『東洋通信』7・8月号を通じて公開している。	C	2013年度は卒業生アンケートを実施予定。	2014年度3月
2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・『履修要覧 通信教育部 2013年度』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html p.5	・卒業要件は左記資料に明示してあるが、それ以外に新入生ガイダンス時に詳しく説明している。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・日本文学文化学科ディプロマ・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html ・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』 ・『履修要覧 通信教育部 2013年度』 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html	・ディプロマ・ポリシーに則って、「日本文学文化概説」「日本語概説」「基礎ゼミナール」などの基礎的科目の必修、「演習」や「文化論」などの選択必修の単位をきちんと修得したうえで、「卒業論文」を必修としている。そうした卒業要件を満たした者に対してのみ学位授与を適切に行っている。	A		

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59	アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・日本文学文化学科アドミッション・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html ・2013年度通信教育課程募集要項 http://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/251.pdf ・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	・通信教育部では、通学課程に準拠して設定し、通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』に明記している。	A		
		60	アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・日本文学文化学科アドミッション・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html ・2013年度通信教育課程募集要項 http://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/251.pdf ・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	・アドミッション・ポリシーでは、日本文学文化を深く理解し、また国際的な視野から捉える力を育成するため、文学、文化に対する強い関心と言葉に対する好奇心、社会事象に対する探究心などをもつ学生を求めている。そのための思考的論理力、表現力を有することを必要とする。通信教育部では、募集要項と通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』に明記しているほか、文学部HPの通信教育部サイトでアドミッション・ポリシーを掲載している。	A		
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61	受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・日本文学文化学科アドミッション・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html ・2013年度通信教育課程募集要項 http://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/251.pdf ・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	・通信教育部では、通学課程に準拠して設定し、通信教育部では、募集要項と通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』に明記している。文学部HPの通信教育部サイトでもアドミッション・ポリシーが掲載されている。	A		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62	受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・2013年度通信教育課程募集要項 http://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/251.pdf	「募集要項」において明示している。	A		
		63	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・2013年度通信教育課程募集要項 http://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/251.pdf	・通信教育部への選抜方法は、通学課程の入試方法とは異なり、出願書類による選抜方法を実施している。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64	学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・「通信教育部規程」 ・「文学部教授会規程」 ・「東洋大学入試委員会議事録」	・通信教育部では、出願書類による選考を行っているため、適宜判定委員会を開いて審議し、教授会で審議・承認を得ている。	A		
		※65	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・「大学基礎データ 表4」	・通信教育部では、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
		66	アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・日本文学文化学科アドミッション・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/site/lit/policy.html ・2013年度通信教育課程募集要項 http://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/251.pdf ・通信教育部日本文学文化学科『演習・卒論の手引き』	・選考方法は、アドミッション・ポリシーに則って設定している。	A		

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学人数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	「大学基礎データ 表4」	通信教育課程の過去5年間の入学定員に対する入学人数比率は、平均して0.07である。	C	科目履修生の制度の改正や柔軟な学習形態の提案などを通して正科生の増加を図る予定である。	
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	「大学基礎データ 表4」	日本文学文化学科の在籍学生数は741名(2013年5月1日現在)で、比率は0.19である。	C	科目履修生の制度の改正や柔軟な学習形態の提案などを通して正科生の増加を図る予定である。	
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	「大学基礎データ 表4」	通信教育課程は、編入学定員を定めておらず、また、「若干名」でも募集していない。そのため、入学定員1000名の範囲内で募集し、書類選考に合格した者が在籍している。	C	編入学学生数を把握し、現状を確認する。	
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・「文学部教授会議事録」 ・「文学部入試委員会議事録」	現在の通信教育制度では限界があり、教学方法、諸手続方法等にいたるまでインターネット、メディアを使用した制度に移行していく必要がある。通信教育課程発足50周年を機に新制度を企画・立案していくことを検討している。	B		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・日本文学文化学科科会議事録	11月～12月の学科教員会議の際に、現行のポリシーの適切性を審議し、HPでの公表、『履修要覧』『演習・卒論の手引』への掲載を検証している。	A		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・通信教育委員会(判定委員会)資料	入学者選考の過程で検討をおこなっている。	A		

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	『履修要覧 通信教育部 2013年度』に記載。 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/guidebook.html P.5～12	共通総合科目で「哲学」科目を開講している。	A		
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・「シラバス」 https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/ ・通信教育部日本文学文化学科の教育課程表 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/tsushinkyuiku-curriculum.html	・日本の文学文化を世界に向けて発信できるような人材を養成するという学科教育の目的に照らして、比較文学文化分野の科目に「フランス語圏」「英語圏」「ドイツ語圏」「中国語」と「日本文学文化」という講義科目を設置している。 ・海外からの留学生の受け入れ、学生の海外留学の推進などは、学科としては特段の方策を立ててこなかった。	B	2014年度からの「中期目標・計画」の中で推進策を打ち出すことを検討中。また、2014年度から国際化に対応する特別委員会を設けて推進を進めていく予定。	継続的に改善を進める。
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。		通信教育部の学生はすでに職をもっている者や卒業後の就労を目的としていない者が多いという特殊性もあり、特に就職支援等のキャリア教育・指導はおこなっていない。	C		
2) 学部・学科独自の評価項目①	学習機会の拡大	100	メディア授業の展開を促進している。	通信教育部の3つの学びやすさ「メディア授業」 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/media.html	授業の動画をmicroSDカードに格納し、ワンセグ携帯などの機器を用いて受講するという新しい形態により、いつでもどこでも視聴が可能となり、学習機会の拡大につながっている。	A		
3) 学部・学科独自の評価項目②	学習機会の拡大	101	3部間聴講制度を実施。	通信教育部の3つの改革「3部間聴講制度」 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/reform02.html	正科生がその学年配当にしたがって通学課程(文学部第1部・第2部 法学部第2部)の授業を通年スクーリングとして受講することができ、修得した単位は最大40単位まで卒業単位として認定される。	S		
4) 学部・学科独自の評価項目③	学習機会の拡大	102	スクーリング料、単位認定試験料等を含む定額制授業料の実施。	通信教育部の3つの学びやすさ「定額制授業料」 http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/reform01.html	意欲ある学生には門戸を広げ学習を応援するという目的で、定額制授業料制度を導入。スクーリングを履修している科目なら、日程の許す限り受講数に関わらず追加費用は無料。	S		
5) 学部・学科独自の評価項目④	学生の学習促進を援助	103	入学者、履修者に対するガイダンスの充実。	通信教育課程システムガイド(動画) http://www.toyo.ac.jp/site/tsukyo/system-guide.html	学生が主体的に学びに関われるよう、各種の動画で懇切丁寧に説明している。また、定期的にガイダンスや指導会を行って通信教育特有の形態による学習の充実を支援している。	S		
		104						
		105						